

---

---

*Aziun Acceptor*

*Service Ver1.0*

*WindowsNTServer4.0 版*

*導入マニュアル*

---

---

# 目次

1. 動作環境.....	3
2. 概念図.....	4
3. インストール手順.....	5
4. Perl の導入(ActivePerl).....	7
5. 環境の設定.....	12
5.1. メンテナンスCGIの設定.....	12
5.1.1. jcode.pl の設定.....	12
5.1.2. aziunmtn.pl の変更.....	12
5.1.3. 環境ファイルの設定.....	13
5.1.4. 各種ファイルのコピー.....	13
5.1.5. Web サイト(Aziun)の設定.....	14
5.1.6. Web サイト(Aziunlog)の設定.....	17
5.2. FTP の設定.....	19
5.2.1. フォルダの作成.....	19
5.2.2. FTP サイトの構築.....	20
5.2.3. FTP ユーザの登録.....	26
6. サービス環境設定.....	29
6.1. WATCH 情報.....	30
6.2. CLASS 情報.....	31
6.2.1. 新規登録.....	31
6.2.2. 更新、削除.....	32
6.3. JOBID 情報.....	32
6.3.1. 新規登録.....	32
6.3.2. 更新、削除.....	33
6.4. START 情報.....	34
6.4.1. 新規登録.....	34
6.4.2. 更新、削除.....	35
6.5. FILEID 情報.....	35
6.5.1. 新規登録.....	35
6.5.2. 更新、削除.....	36
6.6. HOSTID 情報.....	36
6.6.1. 新規登録.....	36
6.6.2. 更新、削除.....	37
6.7. FTP 情報.....	37
6.7.1. 新規登録.....	37
6.7.2. 更新、削除.....	38
6.8. HTML 情報.....	39

6.8.1.	新規登録.....	39
6.8.2.	更新、削除.....	40
6.9.	LOG 情報.....	40
7.	実行ログ.....	41
8.	サービスの設定.....	42
8.1.	サービスの登録.....	42
8.2.	サービスの削除.....	42
8.3.	サービスの停止、開始.....	42
9.	設定例.....	43
9.1.	アプリケーションの起動例.....	43
9.1.1.	FTP 情報の設定.....	43
9.1.2.	HTML 情報の設定.....	44
9.1.3.	JOBID 情報の設定.....	46
9.1.4.	FILEID 情報の設定.....	46
9.2.	データファイルの配布例.....	48
9.2.1.	HTML 情報の設定.....	49
9.2.2.	JOBID 情報の設定.....	49
9.2.3.	FILEID の指定.....	51
10.	仮パラメータ.....	52
11.	イベントログ.....	53

## 1. 動作環境

OS:WindowsNTServer Ver4.0

Aziun を起動するには、以下のものがインストールされていなければなりません。

1).WindowsNT SP5 以上

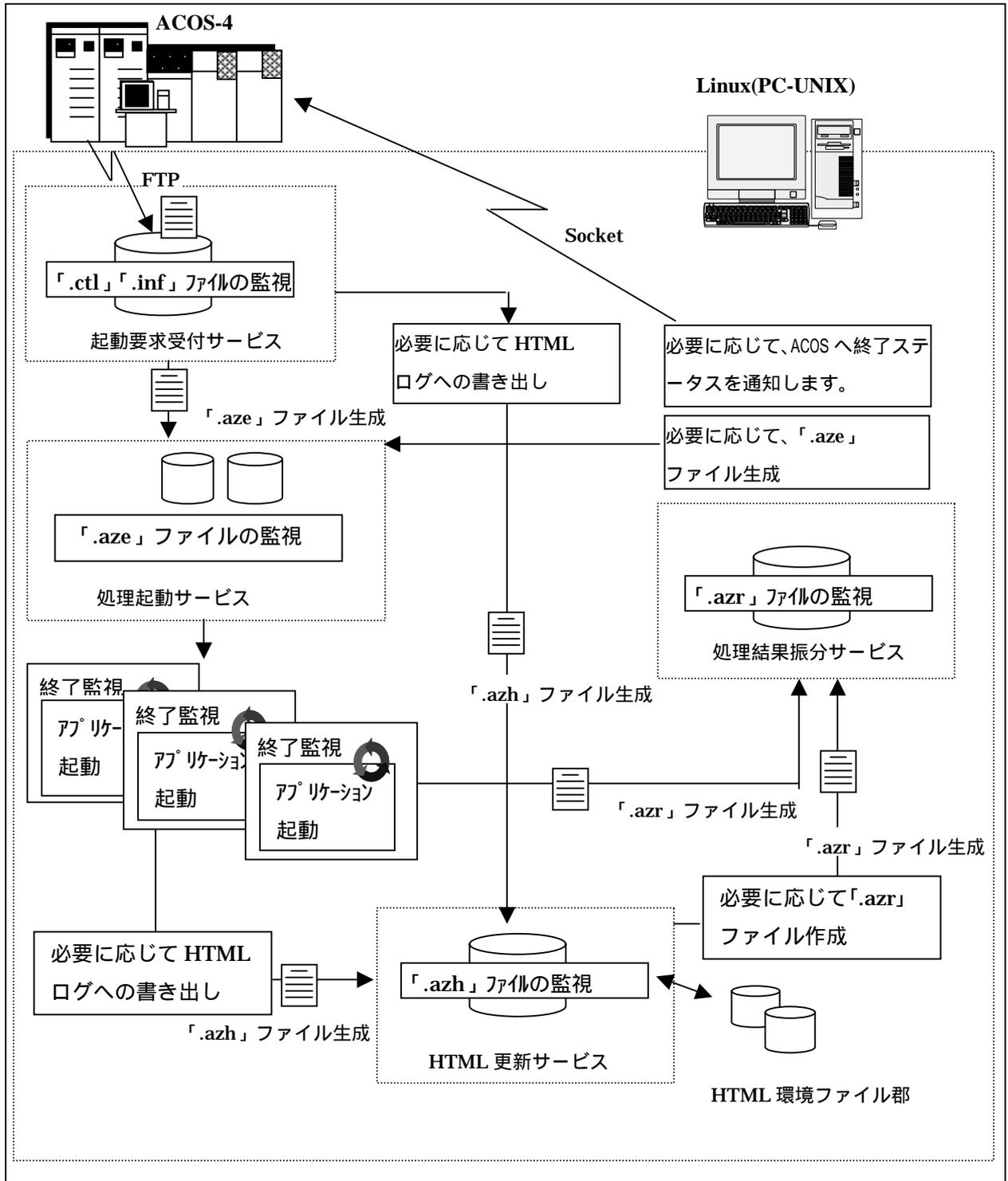
2).OptionPack 4.0

Web,FTP サーバの導入が必須となります。

3).Internet Explorer 4.01 以降

環境設定をブラウザ上で行うため、必要となります。

## 2. 概念図



### 3. インストール手順

まず、インストーラーが入っている FDD もしくは CD-ROM をセットし、Setup.exe を起動してください。

以下の画面が表示されますので、次へボタンを押してください。



次の画面でアプリケーションをインストールする先を選択してください。



次へボタンが選択されると次の画面が表示されます。

¥Aziun¥Acceptor というフォルダーを作成し、インストールすることをお勧めします。

例) C:¥Aziun¥Acceptor

これでインストールは完了です。  
この後、環境の設定を行ってください。

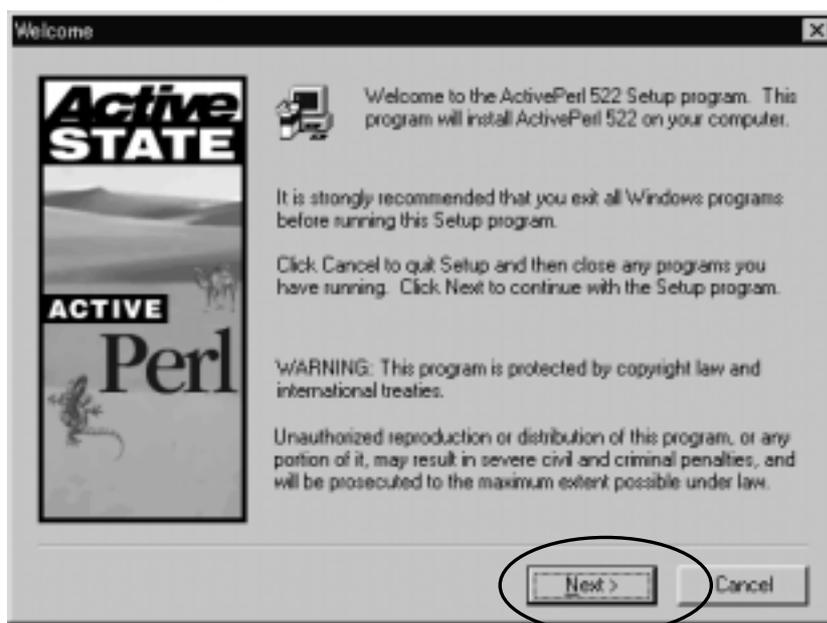


## 4. Perl の導入(ActivePerl)

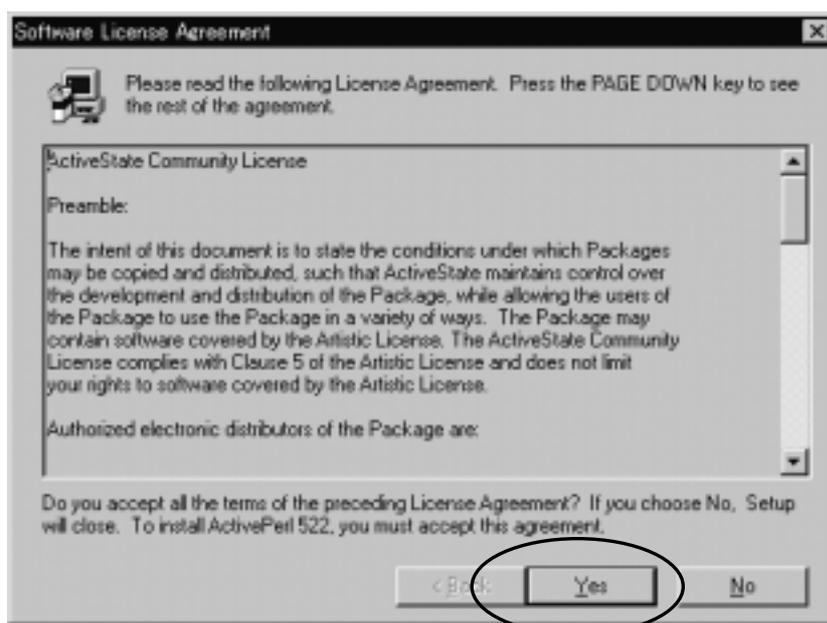
環境設定プログラムは Perl 言語で作成されております。

WindowsNT では、そのままでは起動することができませんので以下の製品をインストールします。

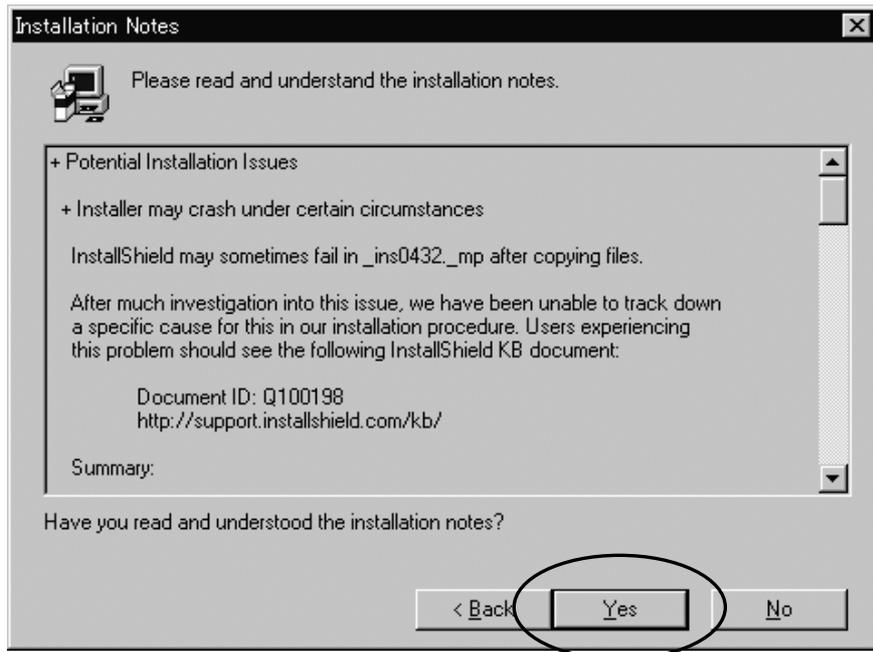
インストール CD-ROM 中の¥Perl¥Api522e.exe を起動します。  
起動すると、以下のような画面が表示されます。



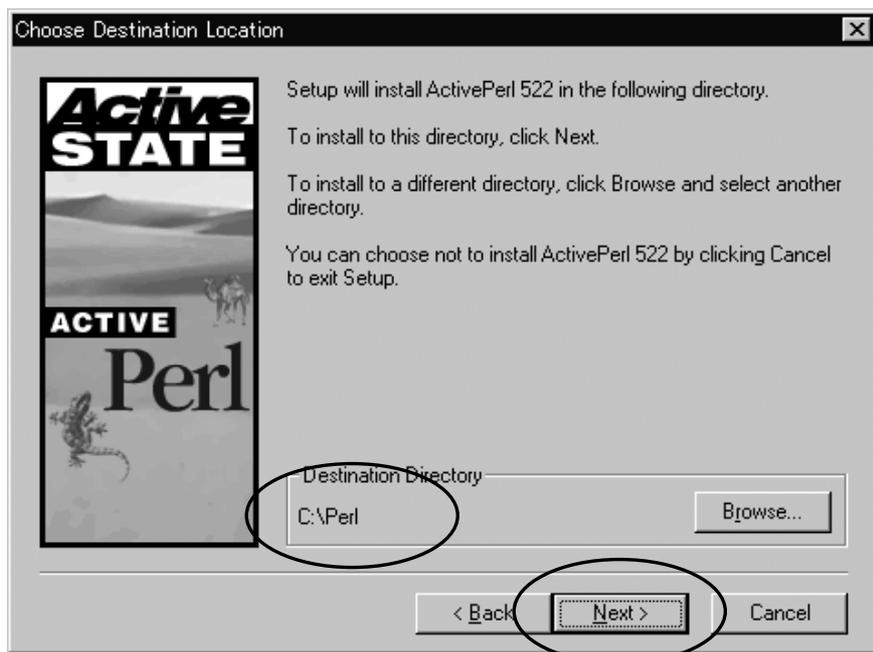
Next ボタンを選択してください。以下の画面が表示されます。



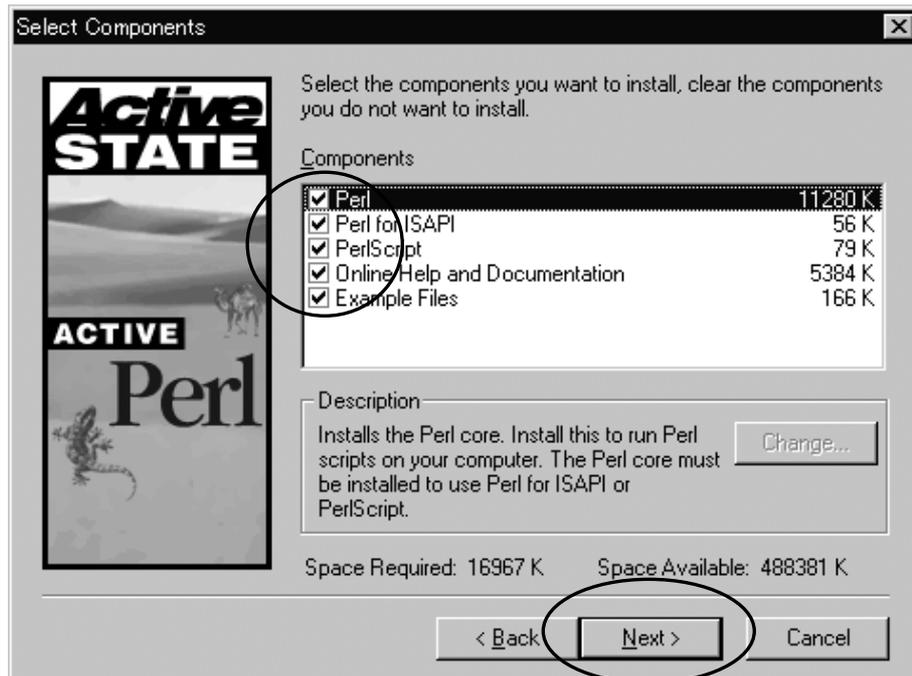
Yes ボタンを選択してください。次頁の画面が表示されます。



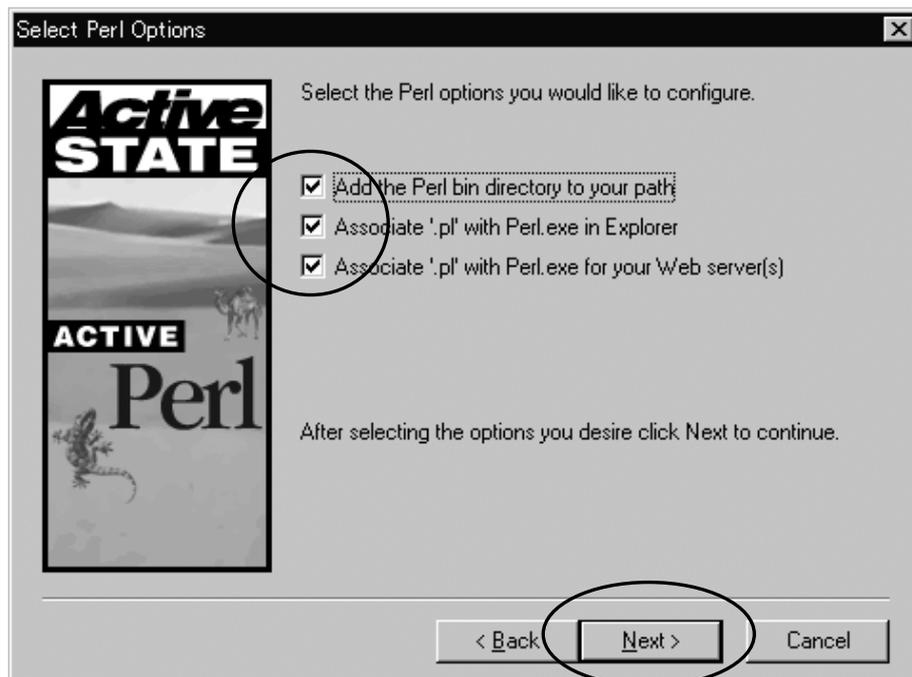
Yes ボタンを選択します。以下の画面が表示されます。



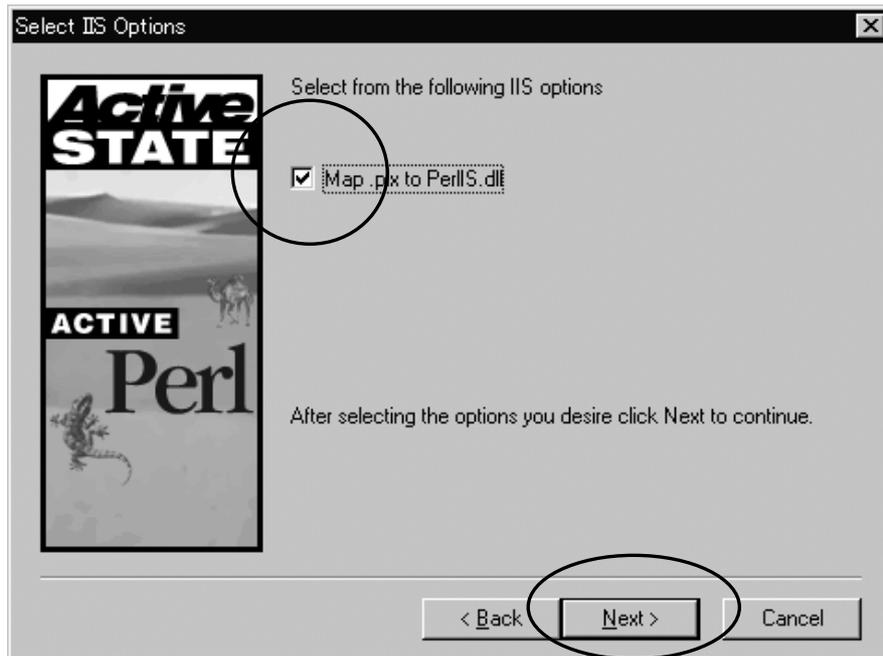
インストール先を指定します。指定後、Next ボタンを選択します。次頁の画面が表示されます。



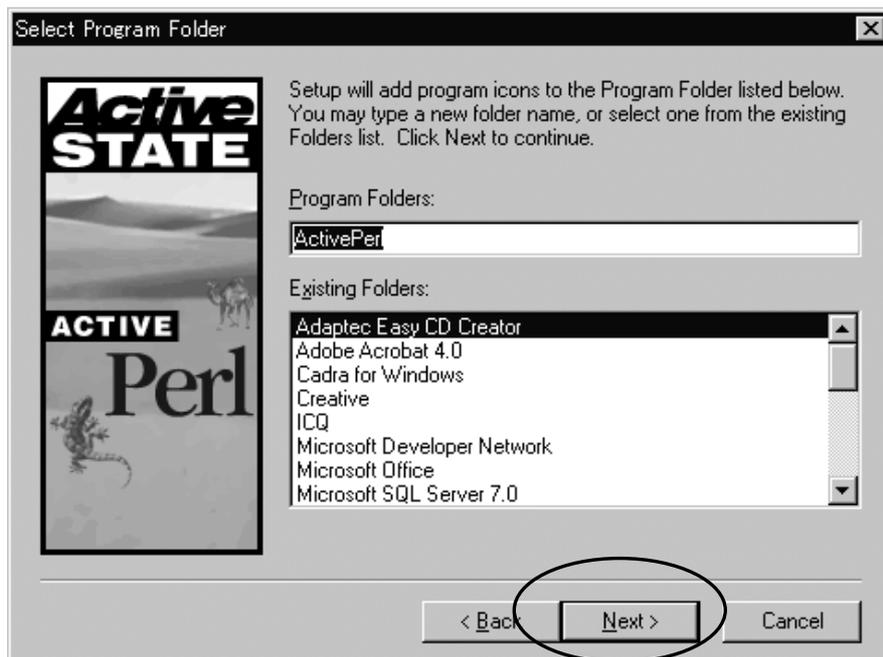
チェックボックス内は全てを選択し、Next ボタンを選択します。  
以下の画面が表示されます。



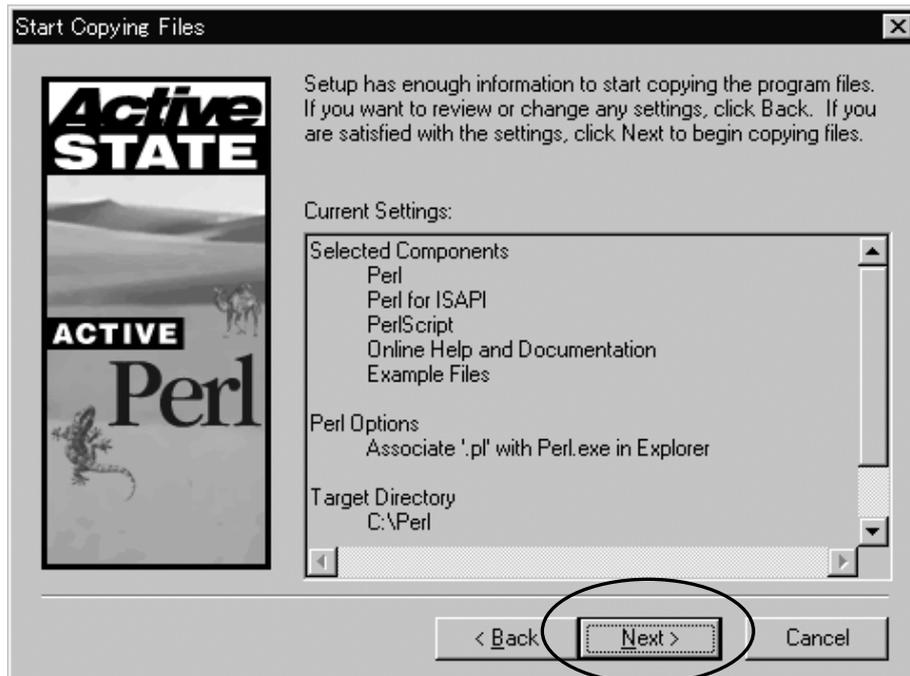
チェックボックス内は全てを選択し、Next ボタンを選択します。  
以下の画面が表示されます。



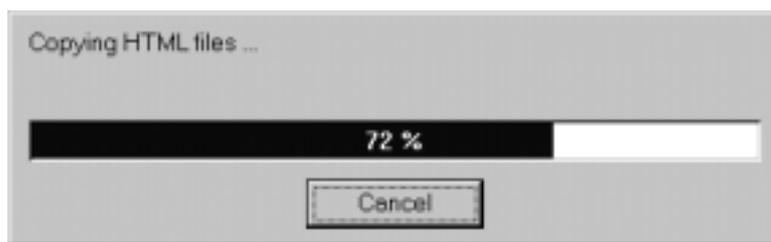
チェックボックス内を選択し、Next ボタンを選択します。  
以下の画面が表示されます。



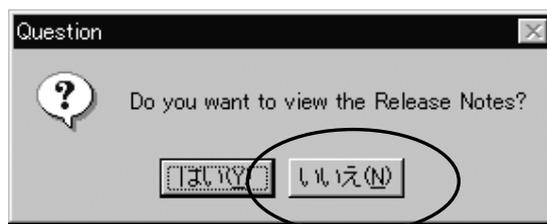
Next ボタンを選択します。次頁の画面が表示されます。



Next ボタンを選択します。以下の画面が表示されます。



ファイルのコピー中はこの画面が表示されます。コピー終了するまでそのままお待ちください。終了すると、以下の画面が表示されます。



このメッセージボックスが表示されたら、いいえボタンを選択してください。これで、ActivePerl のインストールが終了しました。

なお、最新の ActivePerl は以下のサイトでもダウンロード可能です。  
ただし、CD-ROM に付属のバージョンでも問題はありません。  
<http://www.activestate.com/ActivePerl>

## 5. 環境の設定

まず、環境設定をする前に、サーバ上に InternetInformationServer(IIS)が導入されているか確認し、導入されていない場合は、インストールしてください。

IIS が確認できましたら、以下の手順で設定を行います。

### 5.1. メンテナンスCGIの設定

#### 5.1.1. jcode.pl の設定

IIS がインストールされているフォルダーを探します。

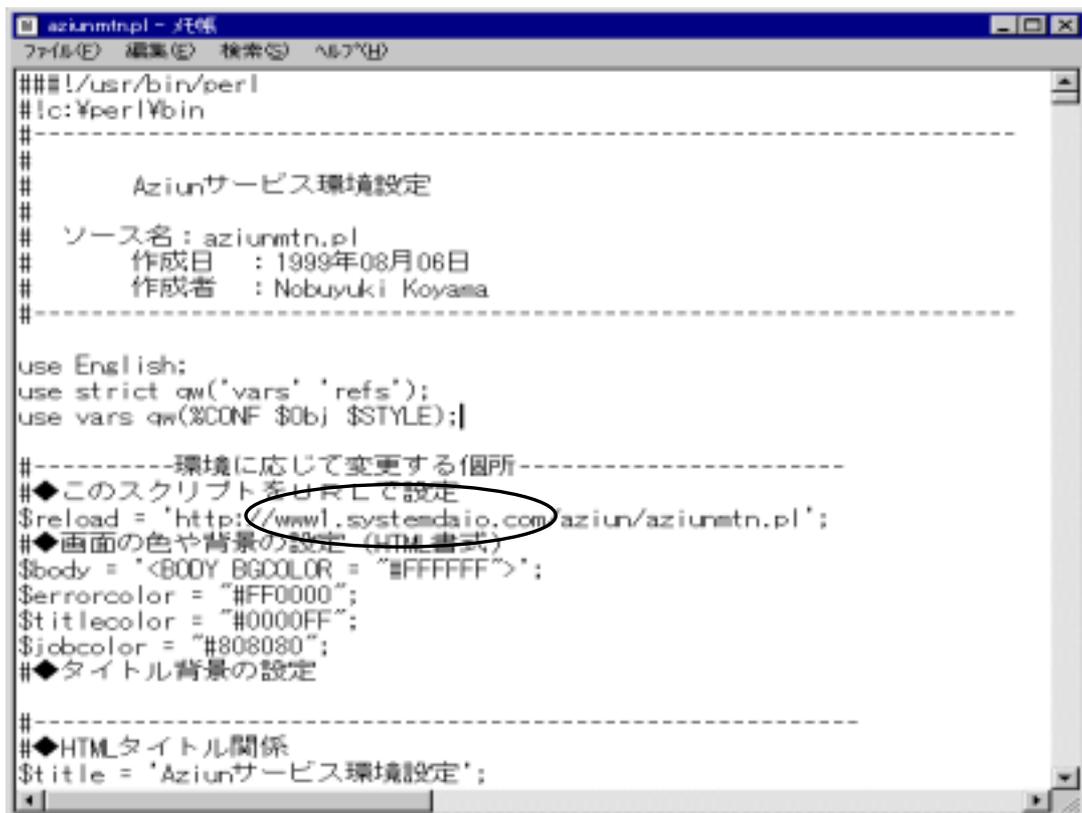
¥InetPub フォルダーがそれにあたります。

¥InetPub¥wwwroot¥cgi-bin フォルダーに、インストールされた jcode.pl ファイルをコピーします。

なお、¥cgi-bin が見つからない場合は、¥InetPub¥wwwroot¥cgi-bin を作成してください。

#### 5.1.2. aziunmtn.pl の変更

インストールされた aziunmtn.pl ファイルをメモ帳などで開き、以下の部分を変更します。



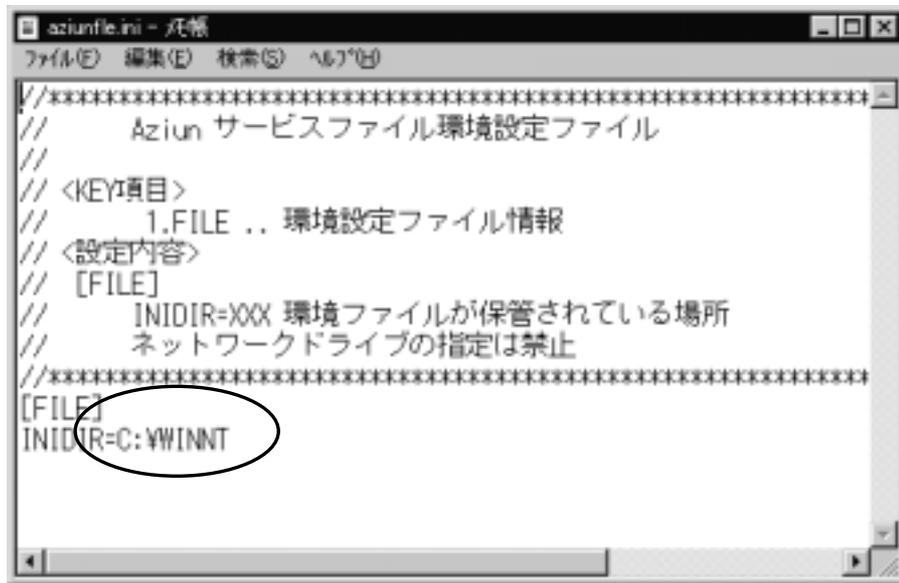
```
###!/usr/bin/perl
##lc:¥perl¥bin
##
##
##      Aziunサービス環境設定
##
##      ソース名：aziunmtn.pl
##      作成日   ：1999年08月06日
##      作成者   ：Nobuyuki Koyama
##-----
use English;
use strict qw('vars' 'refs');
use vars qw(%CONF $obj $STYLE);
##-----環境に応じて変更する箇所-----
##◆このスクリプトを修正して設定
$reload = 'http://www1.systemsdaio.com/aziun/aziunmtn.pl';
##◆画面の色や背景の設定 (HTML書式)
$body = '<BODY BGCOLOR = "#FFFFFF">';
$errorcolor = "#FF0000";
$titlecolor = "#0000FF";
$jobcolor = "#808080";
##◆タイトル背景の設定
##-----
##◆HTMLタイトル関係
$title = 'Aziunサービス環境設定';
```

上図の 印を変更してください。

http://ホスト名/aziun/aziunmtn.pl

### 5.1.3. 環境ファイルの設定

Windows フォルダ内の aziunfle.ini ファイルをメモ帳などで開き、設定を変更します。



上図の 印の定義を、以下のように変更します。

C:\¥InetPub¥wwwroot¥aziun

IIS のフォルダ名を設定

### 5.1.4. 各種ファイルのコピー

インストールされた以下のファイルをコピーします。

¥InetPub¥wwwroot フォルダ内に¥aziun フォルダを作成します。

¥InetPub¥wwwroot¥aziun になります。

このフォルダに以下のファイルをコピーしてください。

<本アプリケーションのフォルダから>

- aziunmtn.pl

<Windows フォルダから>

- aziunsrv.ini

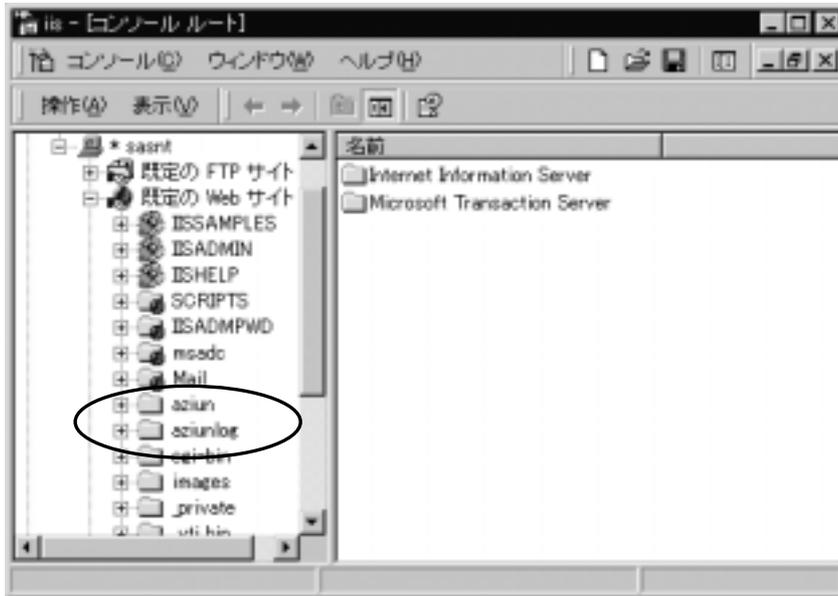
また、¥InetPub¥wwwroot¥Aziunlog も作成してください。

### 5.1.5. Web サイト(Aziun)の設定

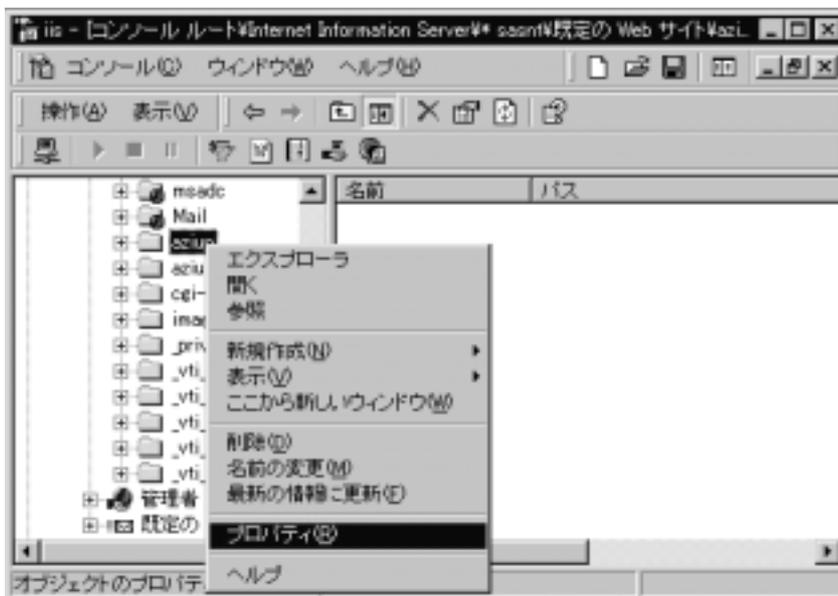
まず、aziun フォルダを Web から参照できるようにします。

ここでは、前頁で、¥InetPub¥wwwroot に¥Aziun,¥Aziunlog が既に作成されているものとして進めていきます。

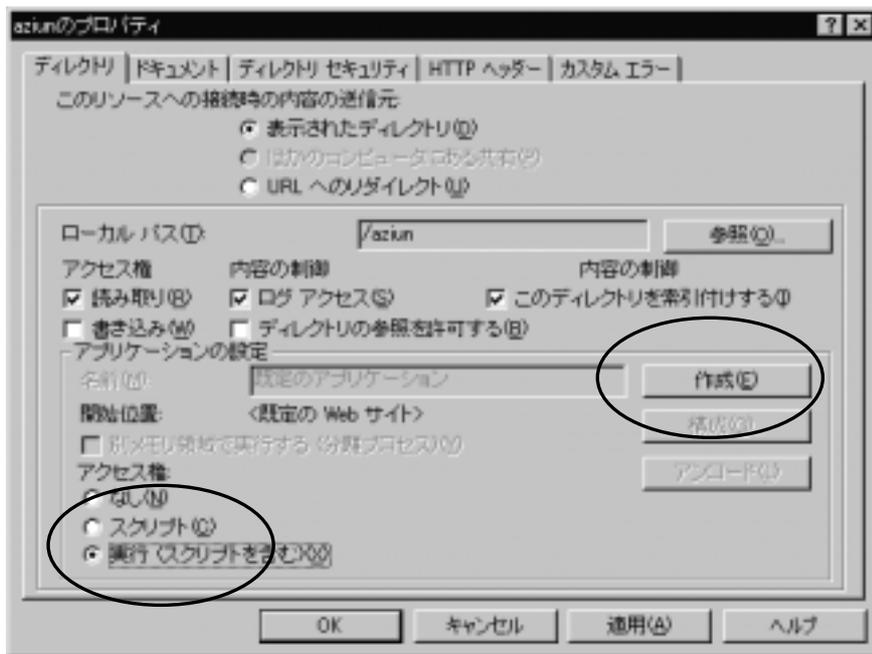
インターネットサービスマネージャーを起動します。



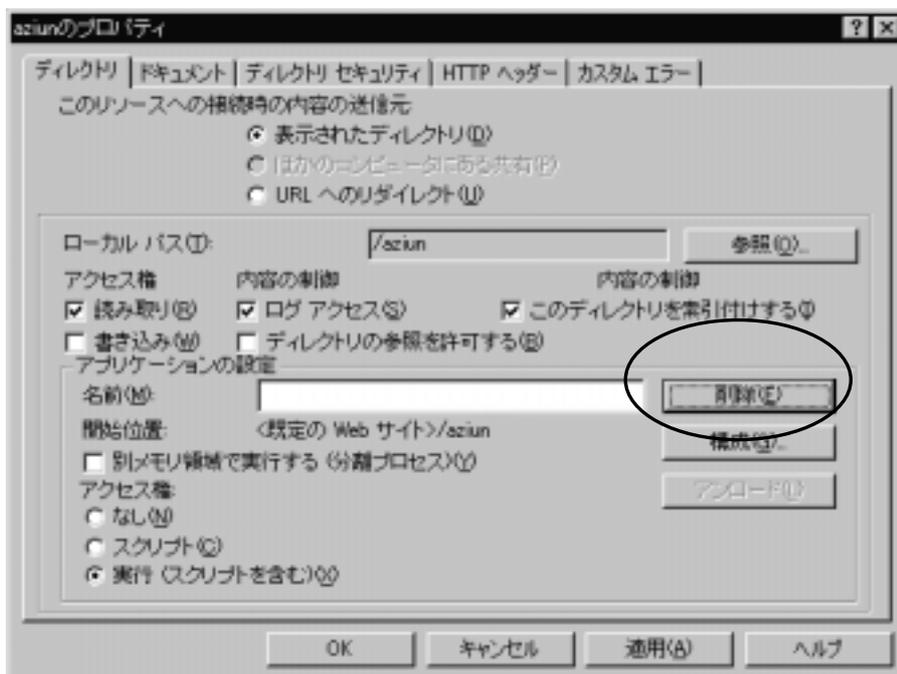
既に、フォルダが作成されている場合には、上記の 印のように、フォルダが表示されます。以下のように、¥Aziun フォルダを選択して、右クリックをするとメニューウィンドウが表示されます。



プロパティを選択します。選択されると、次頁のような画面が表示されます。



アクセス権を「実行 (スクリプトを含む)」に変更します。  
作成ボタンを選択します。



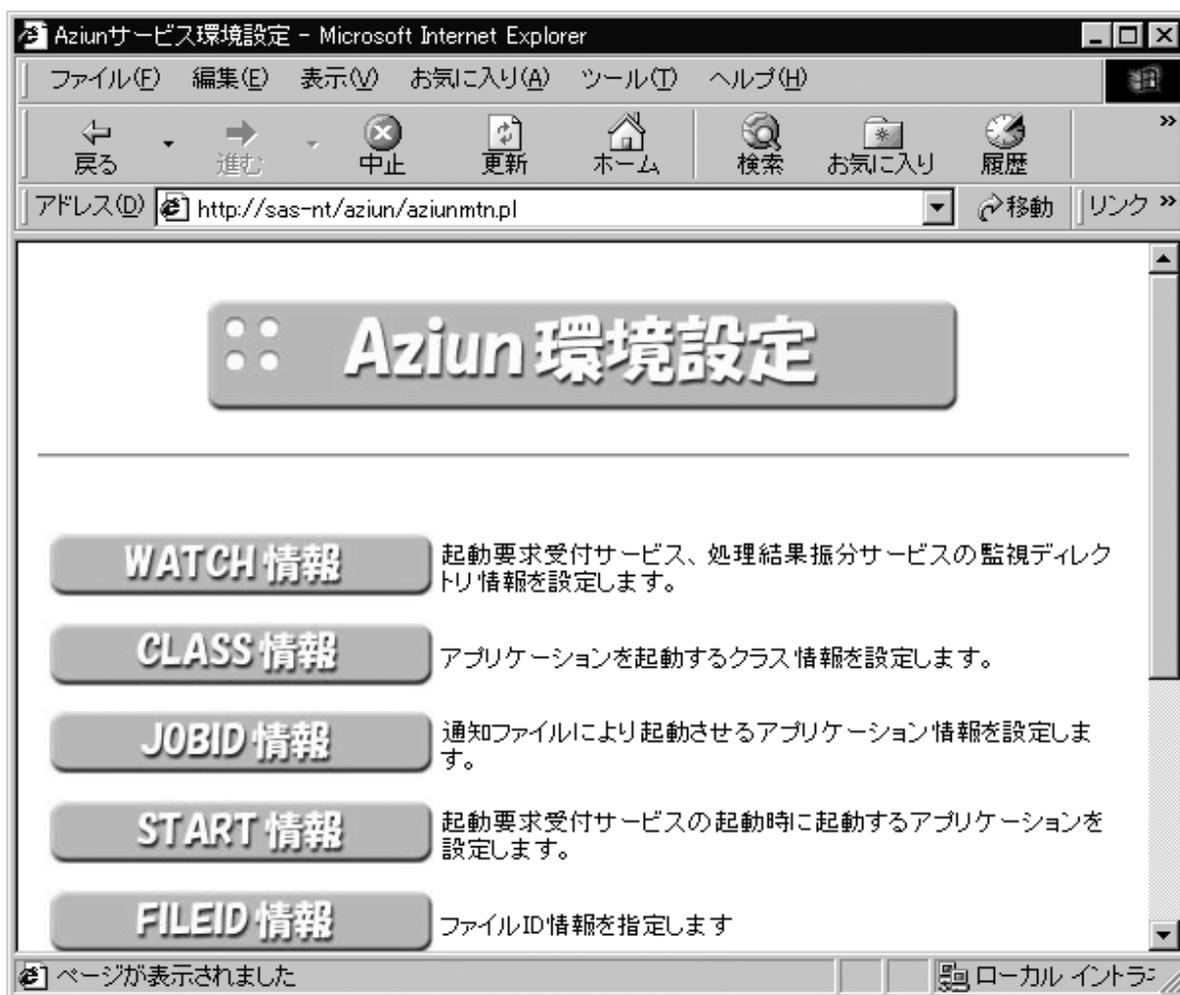
作成完了すると、「作成」ボタンが「削除」ボタンになります。

Acceptor がインストールされたフォルダー内の¥Images を、¥InetPub¥wwwroot¥Aziun の配下にフォルダーごとコピーしてください。

ここまで設定できたら、実際にブラウザを起動してみましょう。

URL は以下のように入力しましょう。

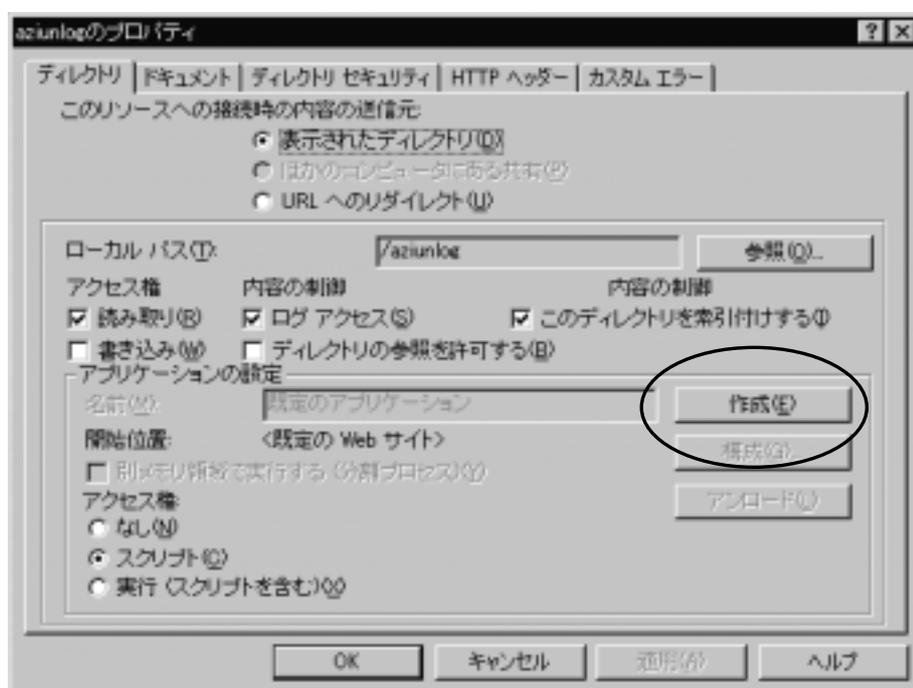
http://ホスト名/aziun/aziunmtn.pl



この画面からどれかを選択して、表示されれば設定は完了です。

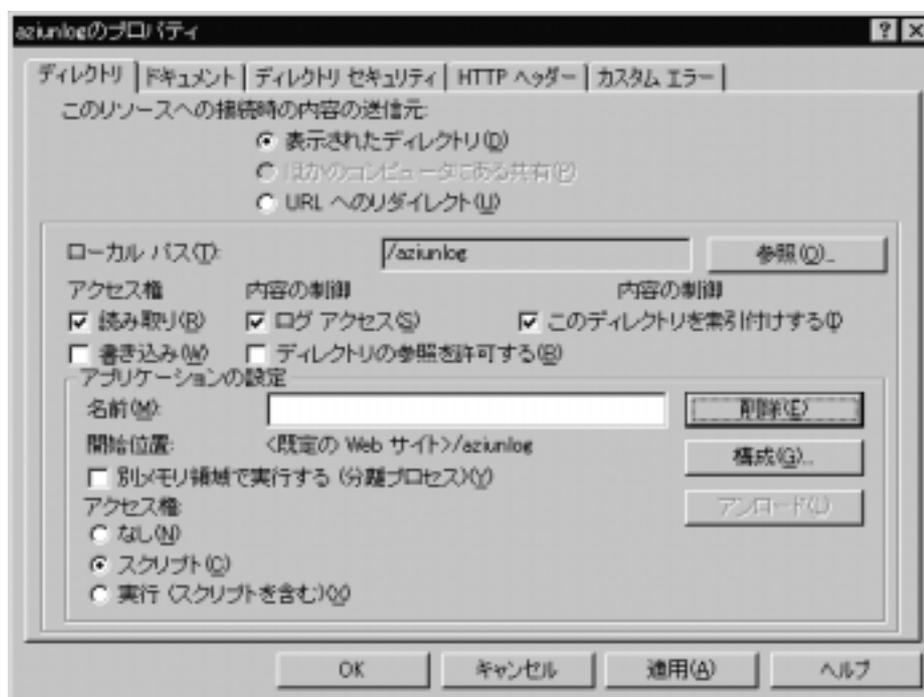
### 5.1.6. Web サイト(Aziunlog)の設定

次に¥Aziunlog も同じように設定します。



ここでは、アクセス権はそのままかまいません。

作成ボタンを選択してください。



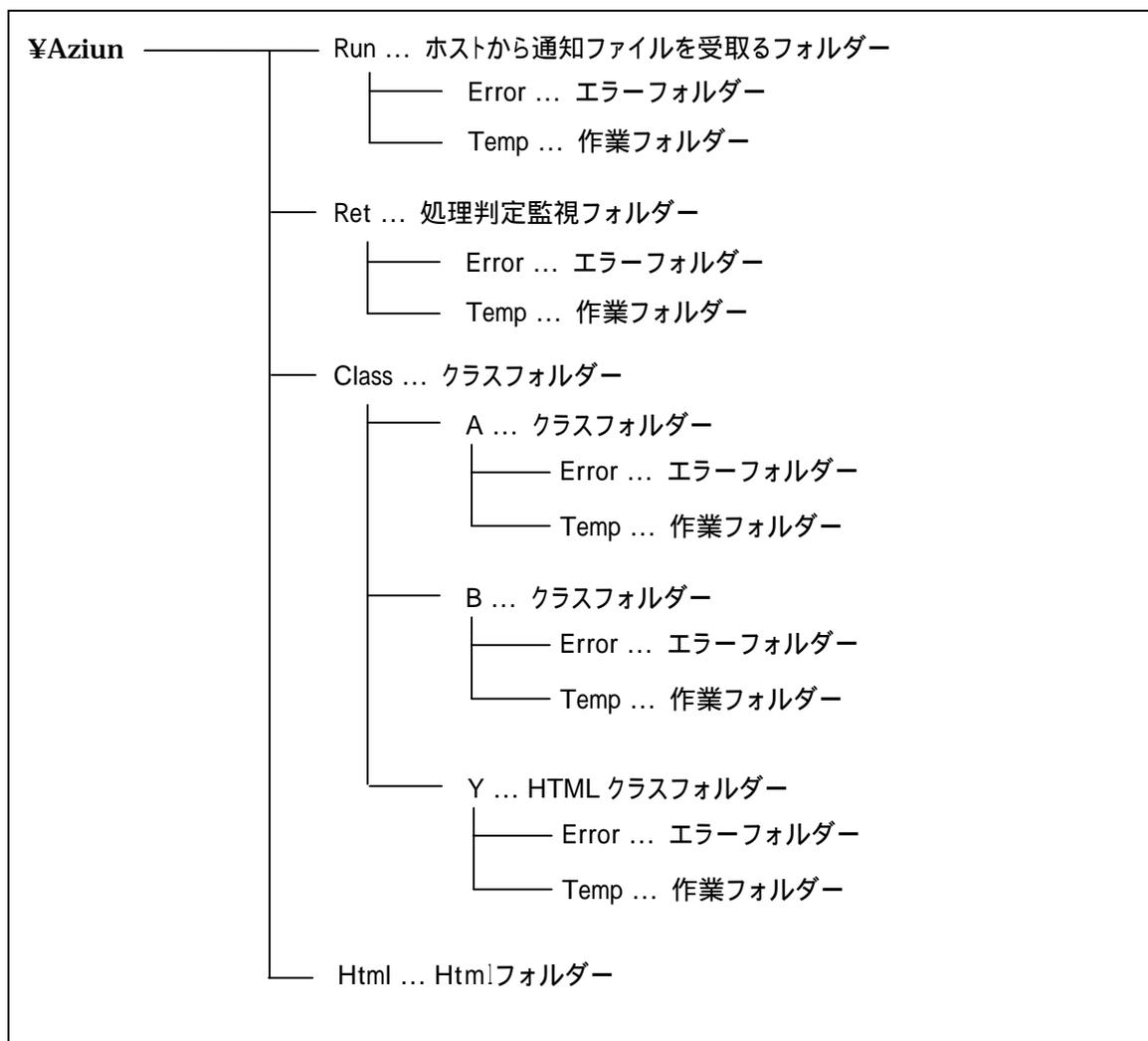


## 5.2. FTP の設定

ホストから通知ファイルを送信する FTP ディレクトリの設定を行います。

### 5.2.1. フォルダの作成

Aziun 環境フォルダを作成してください。

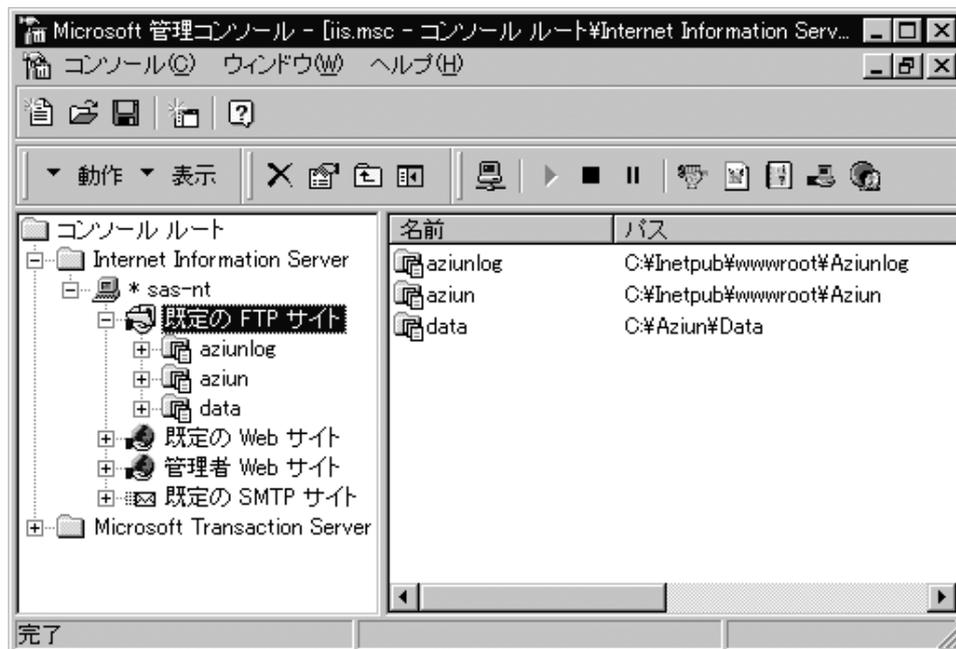


¥Error, ¥Temp フォルダは自動的に作成されます。

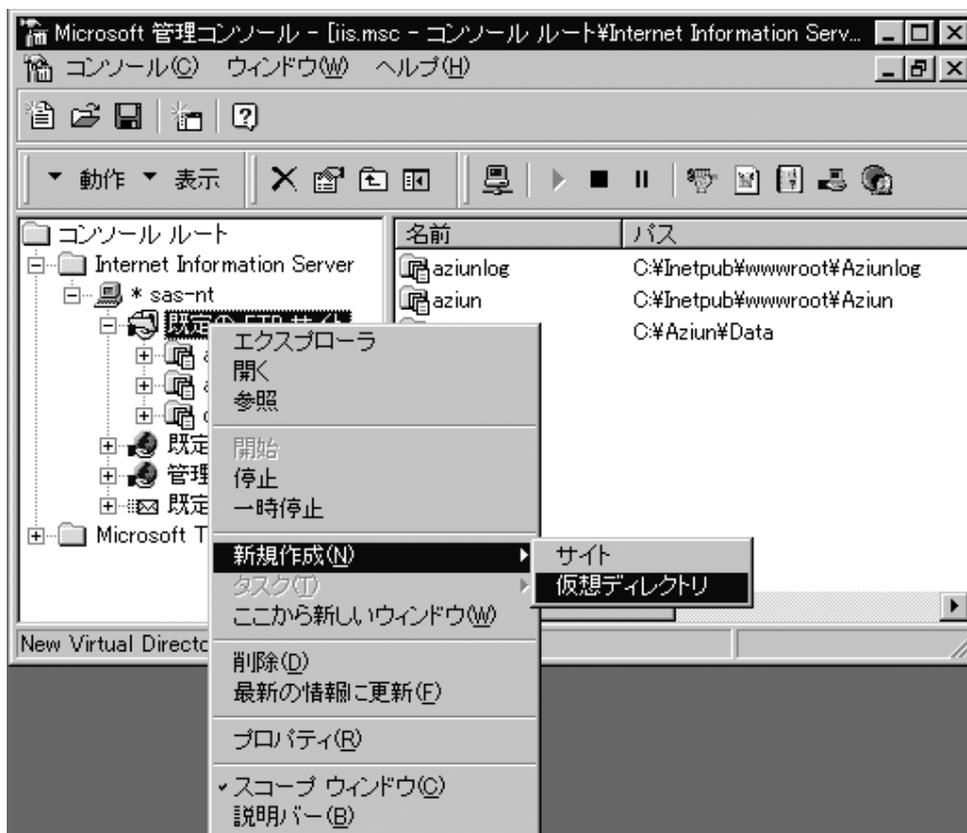
¥Html フォルダには、CD-ROM 内の ¥Html にサンプルヘッダーが入っていますのでコピーしてください。

## 5.2.2. FTP サイトの構築

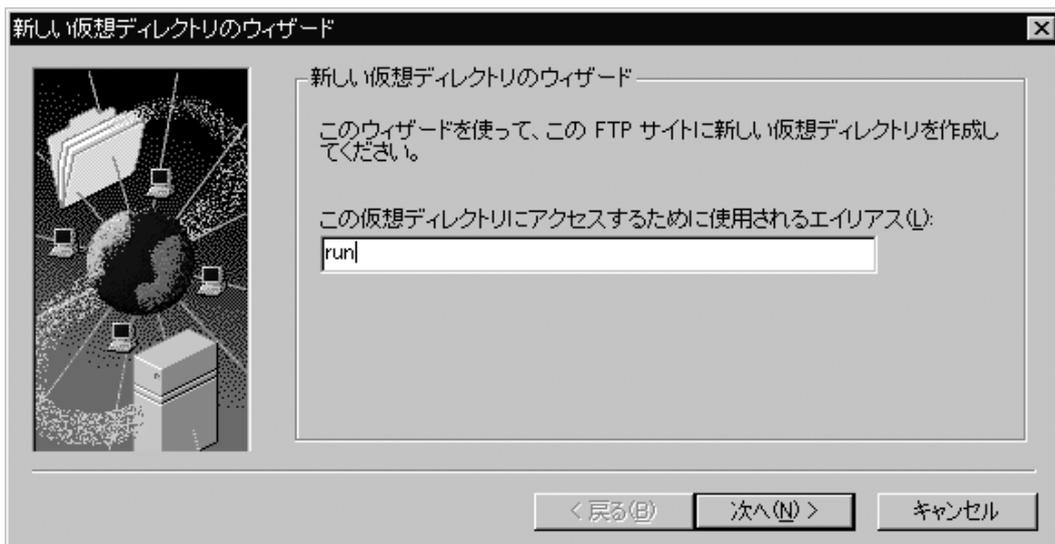
まず、¥aziun¥run フォルダを FTP でファイル転送ができるようにします。  
インターネットサービスマネージャを起動します。



以下のように操作して仮想ディレクトリを作成します。



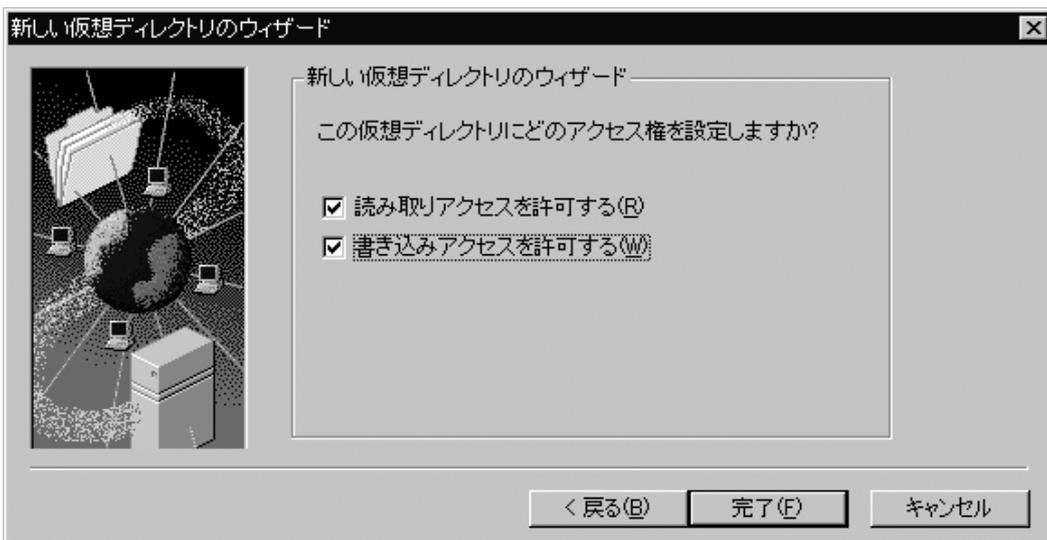
以下の画面で **run** を入力します。



以下の画面で先ほど作成したフォルダーを指定します。



以下の画面でアクセス権を指定します。

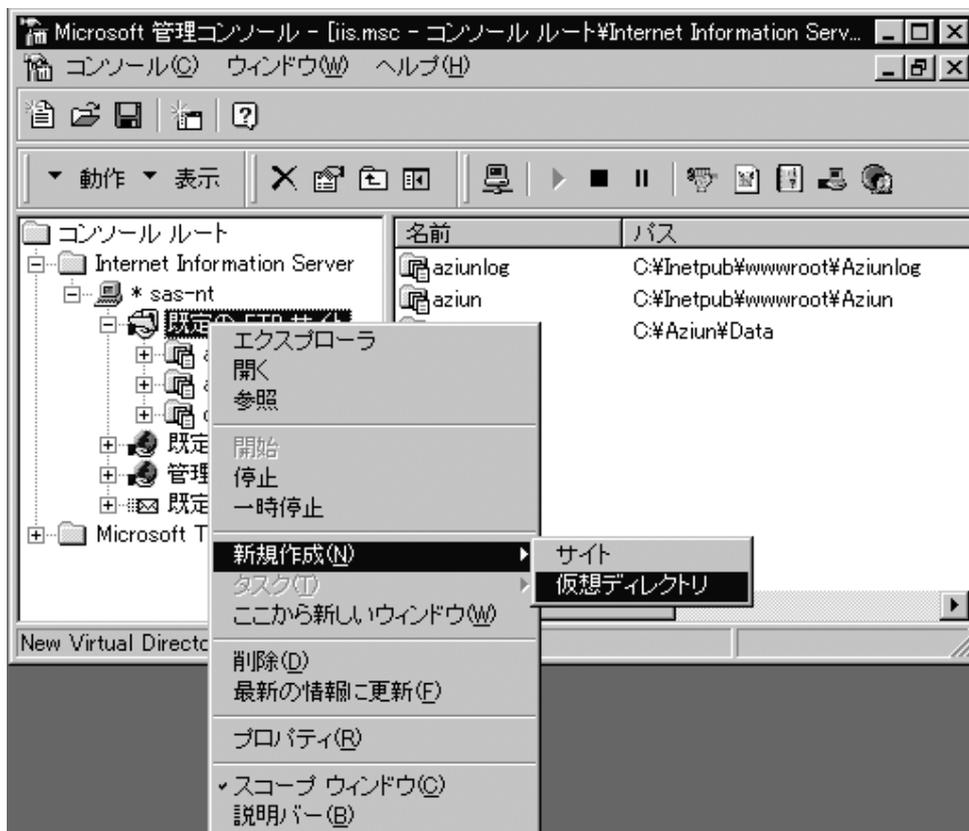


つぎに、¥InetPub¥wwwroot¥aziunlog フォルダを FTP でファイル転送ができるように設定します。

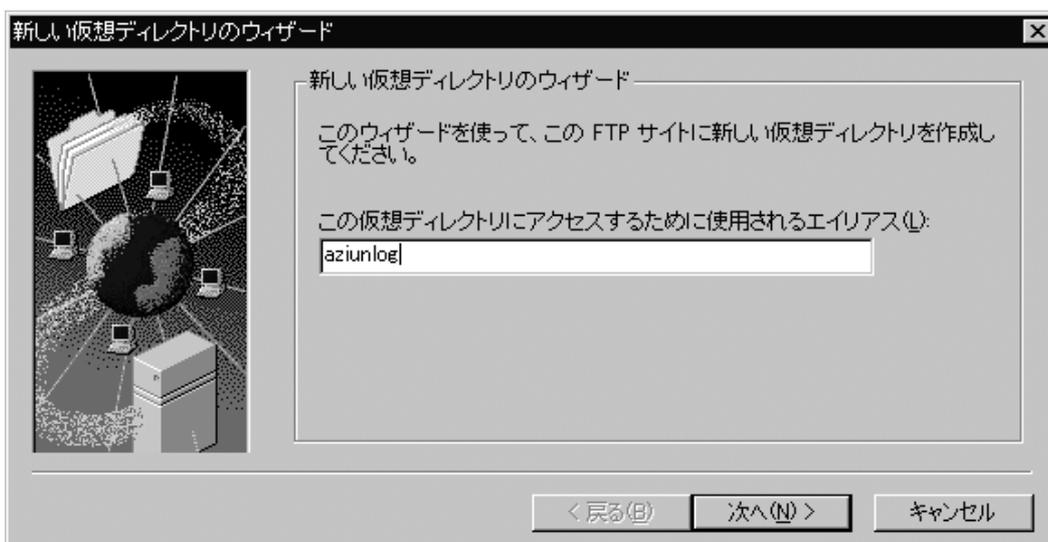
インターネットサービスマネージャーを起動します。



以下のように操作して仮想ディレクトリを作成します。



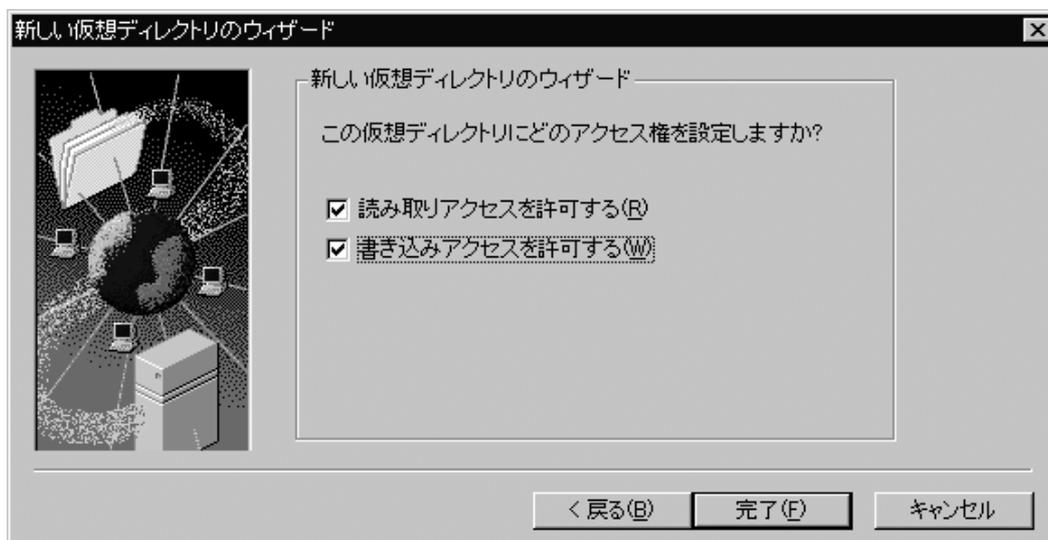
以下の画面で **aziunlog** を入力します。



以下の画面で先ほど作成したフォルダーを指定します。

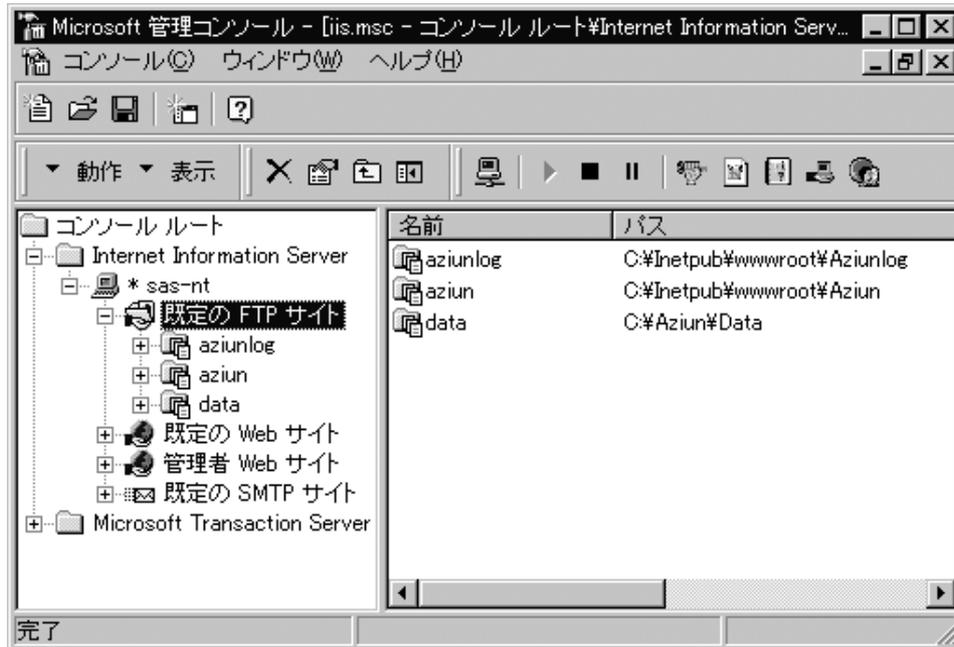


以下の画面でアクセス権を指定します。

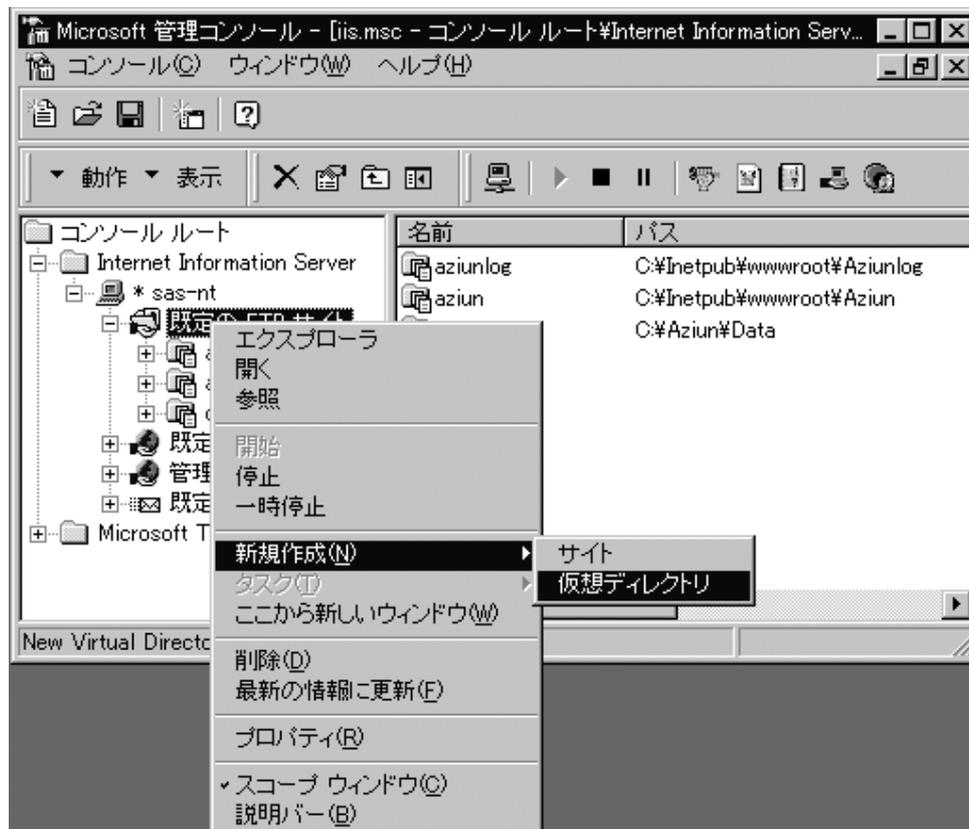


また、ACOS からデータ転送するフォルダーを作成します。

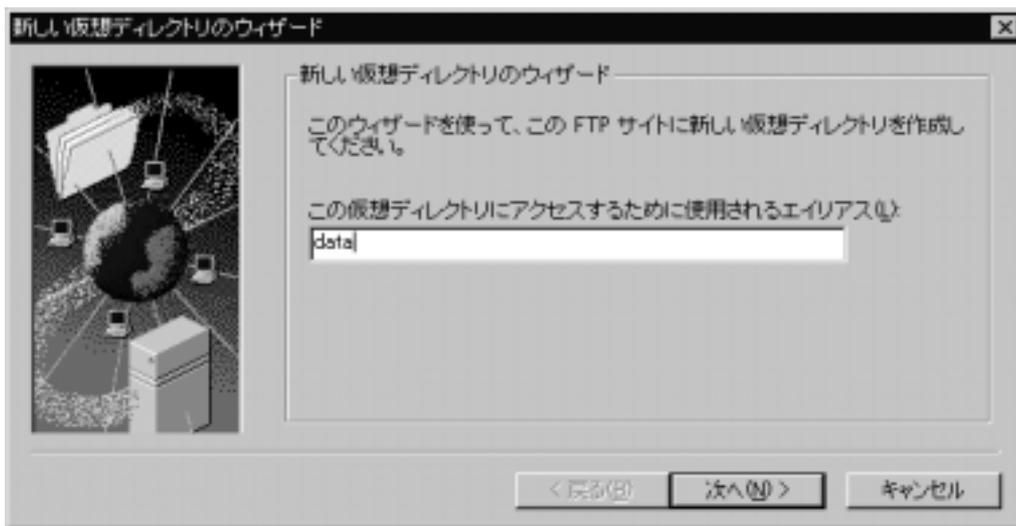
ここでは、¥Aziun¥Data フォルダーを ACOS からのデータファイル受信用のフォルダーとします。



以下のように操作して仮想ディレクトリを作成します。



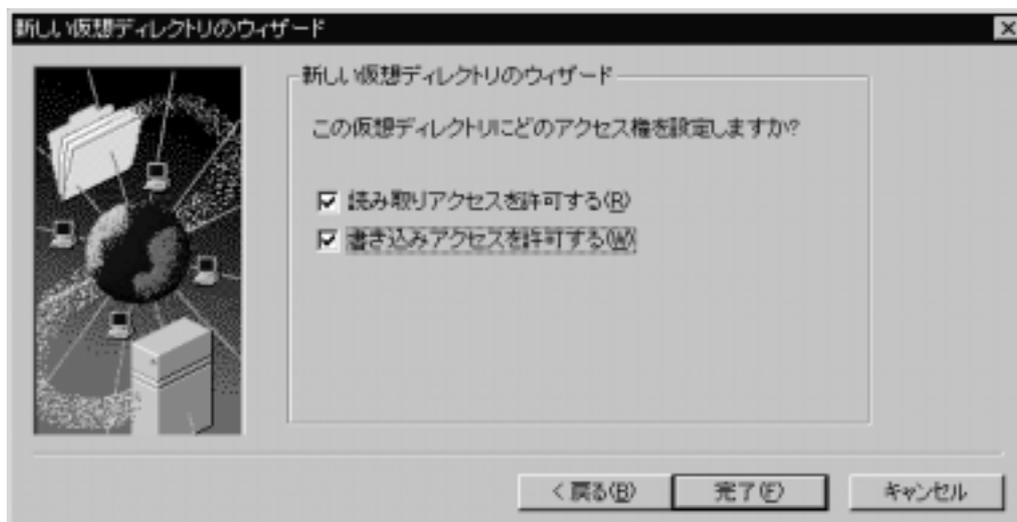
以下の画面で data を入力します。



以下の画面で先ほど作成したフォルダーを指定します。



以下の画面でアクセス権を指定します。



### 5.2.3. FTP ユーザの登録

ユーザマネージャにて FTP ログインユーザを登録します。

新しいユーザ

ユーザ名: azkun

フルネーム: azkunUser

説明: Azkun FTPユーザ

パスワード: \*\*\*\*\*

パスワードの再入力: \*\*\*\*\*

ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必須

ユーザはパスワードを変更できない

パスワードを無期限にする

アカウントを無期限にする

追加 キャンセル ヘルプ

OK 適用 キャンセル

次にドメインユーザマネージャのメニューから「原則」の「ユーザの権利」を選択します。

ユーザマネージャ - WinSASNT

ユーザ名: アカウント 説明

Administrator エクストラドメインの管理用 トレインアカウント

azkun Azkun FTP ユーザ

Guest エクストラドメインへのゲストアクセス用 トレインア

IUSR\_SASNT インターネット アクセス インターネット サーバー匿名アクセス

IWAM\_SASNT Web Application Man;Internet Server Web Application Manager ID

rkoyama

SQLAgentCmdExec SQLAgentCmdExec SQL Server Agent CmdExec Job Step Account

VUSR\_SAS-NT VSA Server Account Visual Studio Analyzer サーバー コンポーネン

グループ 説明

Administrators エクストラドメインを完全に管理できます

Backup Operators ファイル セキュリティを無視してファイルをバックアップできます

Guests エクストラドメインにゲストとしてアクセスできます

MTS Trusted Impersonation Microsoft Transaction Server はプロセス ID を信頼しました。

選択すると、次の画面が表示されます。

ユーザ権利の原則

ポリシー: SASNT

権利: システムのローカルログオン

この権利も与えられたアカウント:

Administrators

Backup Operators

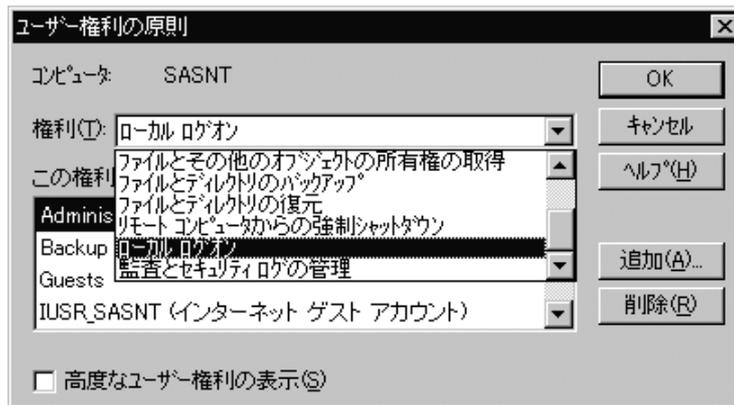
Power Users

Users

高度なユーザ権利の表示

OK キャンセル ヘルプ 追加 削除

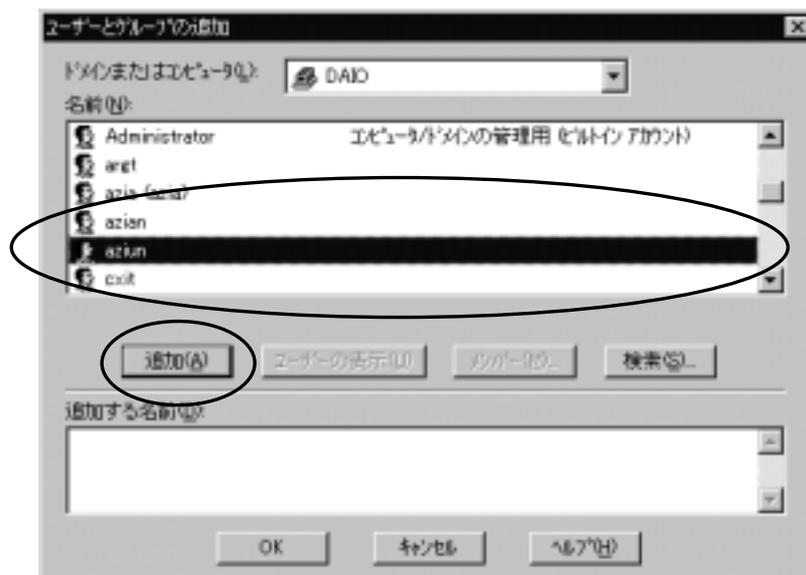
「権利」コンボボックスの中から、「ローカルログオン」を選択します。



選択したら、「追加」ボタンを選択します。



「ユーザの表示」ボタンを選択してください。



Aziun ユーザを選択して、「追加」ボタンを選択します。



上図のように、「追加する名前」に `aziun` が追加されている事を確認して「OK」ボタンを選択してください。

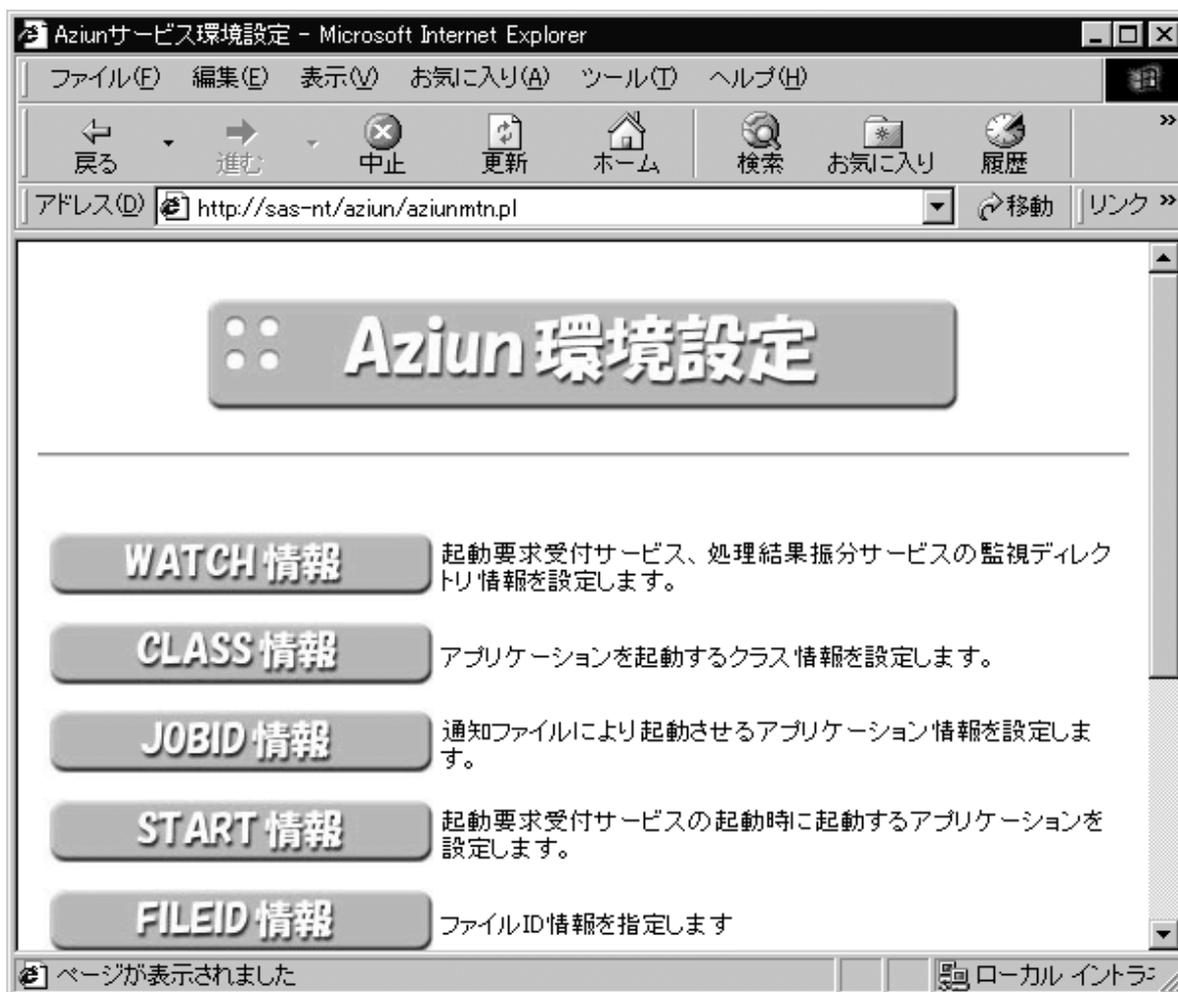
これで、FTP ユーザとしての登録が完了しました。

ユーザ名は `aziun` 以外にも、既存ユーザでも、別のユーザでも問題ありません。

## 6. サービス環境設定

本アプリケーションの各種サービスの環境設定は、全てブラウザにて行います。  
まず、ブラウザを起動して以下の URL を入力してください。

http://ホスト名/aziun/aziunmtn.pl



この画面が表示されたら、次頁の順に従って設定していきます。

## 6.1. WATCH 情報

起動要求受付サービス、処理結果振分サービスの監視ディレクトリ情報を設定します。

起動要求受付サービス		
監視するディレクトリ	<input type="text" value="C:\Azium\RUN"/>	空白を含むディレクトリ名は禁止
監視する間隔(秒)	<input type="text" value="5"/>	3~60秒以内
処理結果振分サービス		
監視するディレクトリ	<input type="text" value="C:\Azium\RET"/>	空白を含むディレクトリ名は禁止
監視する間隔(秒)	<input type="text" value="3"/>	3~60秒以内

更新

### < 起動要求受付サービス >

ホストから通知ファイルを受信する環境を設定します。

- ・ 監視ディレクトリ . . . 指定された秒数ごとに監視するディレクトリを指定。
- ・ 監視する間隔 . . . 監視するタイミングを指定します。

### < 処理結果振分サービス >

起動したアプリケーションの結果に応じて処理を振分ける環境を設定します。

- ・ 監視ディレクトリ . . . 指定された秒数ごとに監視するディレクトリを指定。
- ・ 監視する間隔 . . . 監視するタイミングを指定します。

設定後、更新ボタンを押してください。

## 6.2. CLASS 情報

起動するアプリケーションを実行するクラスを設定します。

監視タイマー(秒)	3	3~60秒まで
【登録画面へ】		
CLASSID	A	検索
クラスディレクトリ	C:\AZIUN\CLASSVA	選択後、検索ボタンを押します
多重度	1	空白を含むディレクトリ名は禁止
識別子		1~10まで
		半角3桁まで。未入力時AZE

登録 更新

### 6.2.1. 新規登録

上図の画面から、【登録画面へ】を選択します。

監視タイマー(秒)	3	3~60秒まで
【更新画面へ】		
CLASSID		半角入力2桁以内
クラスディレクトリ	C:\AZIUN\CLASSVA	空白を含むディレクトリ名は禁止
多重度	1	1~10まで
識別子		半角3桁まで。未入力時AZE

登録

既に登録されているデータをコピーして新規登録する場合は、一旦検索し、登録画面を選択すると、内容がコピーされます。

以下の内容を設定します。

- ・ 監視タイマー・・・クラスディレクトリ全体の監視タイミングを設定します。
- ・ CLASSID・・・クラスIDを設定します。
- ・ クラスディレクトリ・・・監視するディレクトリ名を設定
- ・ 多重度・・・一度に実行できるJOB数を設定
- ・ 識別子・・・HTMLサービスの監視ディレクトリの場合はAZHを指定  
処理起動サービス時の場合は何も指定しない

最後に登録ボタンを押します。

### 6.2.2. 更新、削除

更新、削除する場合は、CLASSID を選択し、検索ボタンを押します。

該当するデータが表示されたら、編集し更新ボタンもしくは削除ボタンを押します。

監視タイマー(秒)	3	3~60秒まで
【登録画面へ】		
CLASSID	A	選択後、検索ボタンを押します
クラスディレクトリ	C:\AZ3\NM\CLASSVA	空白を含むディレクトリ名は禁止
多重度	1	1~10まで
識別子		半角3桁まで。未入力時AZE

### 6.3. JOBID 情報

起動するアプリケーションの設定を行います。

【条件画面へ】		
JOBID	TESTJOB1	選択後、検索ボタンを押します
起動アプリケーション	C:\Program Files\TEST\RUNAZE.EXE	フルパス入力
起動HTMLID		HTML情報で定義されているID
引数	100 250 %EXE%	引数欄は空白
起動クラス	B	クラスで指定されているクラスID
処理名称	テスト処理1	日本語で60文字まで
正常終了時のリターンコード	10 ~ 250	正常終了時のリターンコード範囲
サービス終了時のアプリケーションの状態	1	0:そのまま 1:強制終了

※ 起動するアプリケーション、起動するHTMLIDのどちらかを入力します。両方は選択できません。

#### 6.3.1. 新規登録

上図の画面から、【登録画面へ】を選択します。

【更新画面へ】		
JOBID		半角入力20桁以内
起動アプリケーション	C:\Program Files\TEST\RUNAZE.EXE	フルパス入力
起動HTMLID		HTML情報で定義されているID
引数	100 250 %EXE%	引数欄は空白
起動クラス	B	クラスで指定されているクラスID
処理名称	テスト処理1	日本語で60文字まで
正常終了時のリターンコード	10 ~ 250	正常終了時のリターンコード範囲
サービス終了時のアプリケーションの状態	1	0:そのまま 1:強制終了

※ 起動するアプリケーション、起動するHTMLIDのどちらかを入力します。両方は選択できません。

既に登録されているデータをコピーして新規登録する場合は、一旦検索し、登録画面を選択すると、内容がコピーされます。

以下の内容を設定します。

- ・ JOBID・・・JOBID を設定します。
- ・ 起動アプリケーション・・・起動するアプリケーションをフルパスで設定します。
- ・ 起動 HTMLID・・・アプリケーションの変わりに HTML サービスを利用する場合に HTMLID を指定します。

引数・・・起動するアプリケーションの引数を指定します。

- ・ 起動クラス・・・アプリケーションを実行するクラス ID を指定します。
- ・ 処理名称・・・処理名称を設定します。
- ・ 正常終了時のリターンコード・・・起動したアプリケーションが返す終了ステータスの正常終了値の範囲を設定します。
- ・ サービス終了時のアプリケーションの状態・・・処理起動サービスが終了した場合の起動したアプリケーションの状態を設定します。  
1 を指定した場合は強制的に終了します。  
0 を指定した場合はそのまま起動させておきます。

最後に登録ボタンを押します。

### 6.3.2. 更新、削除

更新、削除する場合は、JOBID を選択し、検索ボタンを押します。

該当するデータが表示されたら、編集し更新ボタンもしくは削除ボタンを押します。

		【登録画面へ】
JOBID	TESTJOB1 <input type="button" value="検索"/>	選択後、検索ボタンを押します
起動アプリケーション	C:\Program Files\TEST\RUNAZE.EXE	フルパス入力
起動HTMLID		HTML情報で定義されているID
引数	108 250 %EXE%	引数欄は空白
起動クラス	B	クラスで指定されているクラスID
処理名称	テスト処理1	日本語で60文字まで
正常終了時のリターンコード	10 ~ 250	正常終了時のリターンコード範囲
サービス終了時のアプリケーションの状態	1	0:そのまま 1:強制終了

※ 起動するアプリケーション、起動するHTMLIDのどちらかを入力します。両方は選択できません。

## 6.4. START 情報

処理要求サービスの開始時に起動するアプリケーション情報を設定します。

【登録画面へ】			
STARTID	START01	検索	選択後、検索ボタンを押します
起動するJOBID	TESTJOB2	テスト処理2	登録済みのJOBID
正常終了時に起動するJOBID	TESTJOB3	△△△処理	登録済みのJOBID
異常終了時に起動するJOBID	TESTJOB4	■■■■処理	登録済みのJOBID
削除 更新			

### 6.4.1. 新規登録

上図の画面から、【登録画面へ】を選択します。

【更新画面へ】		
STARTID	<input type="text"/>	半角入力20桁以内
起動するJOBID	TESTJOB2	登録済みのJOBID
正常終了時に起動するJOBID	TESTJOB3	登録済みのJOBID
異常終了時に起動するJOBID	TESTJOB4	登録済みのJOBID
登録		

既に登録されているデータをコピーして新規登録する場合は、一旦検索し、登録画面を選択すると、内容がコピーされます。

以下の内容を設定します。

- ・ STARTID・・・STARTID を設定します。
- ・ 起動する JOBID・・・起動するアプリケーションの JOBID を指定します。
- ・ 正常終了時に起動する JOBID・・・起動する JOBID が正常終了した際に起動する JOBID を指定します。
- ・ 異常終了時に起動する JOBID・・・起動する JOBID が異常終了した際に起動する JOBID を指定します。

最後に登録ボタンを押します。

## 6.4.2. 更新、削除

更新、削除する場合は、STARTID を選択し検索ボタンを押します。

該当するデータが表示されたら、編集し更新ボタンもしくは削除ボタンを押します。

【登録画面へ】			
STARTID	START01	検索	選択後、検索ボタンを押します
起動するJOBID	TESTJOB2	テスト処理2	登録済みのJOBID
正常終了時に起動するJOBID	TESTJOB3	△△△処理	登録済みのJOBID
異常終了時に起動するJOBID	TESTJOB4	■■■■■処理	登録済みのJOBID
[削除] [更新]			

## 6.5. FILEID 情報

ホストからの通知ファイルを受信した際に、どのアプリケーションを起動するか設定します。

### 6.5.1. 新規登録

上図の画面から、【登録画面】を選択します。

【更新画面へ】		
FILEID	<input type="text"/>	半角入力20桁以内
起動するJOBID	TESTJOB1	登録済みのJOBID
正常終了時に起動するJOBID	TESTJOB4	登録済みのJOBID
異常終了時に起動するJOBID	TESTJOB5	登録済みのJOBID
開始ログ用JOBID	<input type="text"/>	登録済みのJOBID
終了ログ用JOBID	<input type="text"/>	登録済みのJOBID
[登録]		

既に登録されているデータをコピーして新規登録する場合は、一旦検索し、登録画面を選択すると、内容がコピーされます。

以下の内容を設定します。

- ・ FILEID・・・FILEID を設定します。
- ・ 起動する JOBID・・・起動するアプリケーションの JOBID を指定します。
- ・ 正常終了時に起動する JOBID・・・起動する JOBID が正常終了した際に起動する JOBID を指定します。
- ・ 異常終了時に起動する JOBID・・・起動する JOBID が異常終了した際に起動する JOBID を指定します。
- ・ 開始ログ用 JOBID・・・HTML 情報が登録されている JOBID を指定。  
開始時のログを設定
- ・ 終了ログ用 JOBID・・・HTML 情報が登録されている JOBID を指定  
開始時のログを設定

最後に登録ボタンを押します。

### 6.5.2. 更新、削除

更新、削除する場合は、FILEID を選択し検索ボタンを押します。

該当するデータが表示されたら、編集し更新ボタンもしくは削除ボタンを押します。

【登録画面へ】			
FILEID	TESTXX	検索	選択後、検索ボタンを押します
起動するJOBID	TESTJOB1	テスト処理1	登録済みのJOBID
正常終了時に起動するJOBID	TESTJOB4	前画面処理	登録済みのJOBID
異常終了時に起動するJOBID	TESTJOB5	AAA処理	登録済みのJOBID
開始ログ用JOBID			登録済みのJOBID
終了ログ用JOBID			登録済みのJOBID
削除 更新			

### 6.6. HOSTID 情報

ホストからの通知ファイルに PCSYNC オプションが指定されていた場合に起動したアプリケーションの終了コードを返すホスト情報を登録します。

通知ファイルの HOSTID と一致するホストへ通知します。

一致しない場合は、一番最初のホスト定義を参照します。

再接続タイマー(秒)	3	3~60秒まで
【登録画面へ】		
HOSTID	HOST1	検索
IPアドレス	210.226.158.243	XXX.XXX.XXX.XXX形式
ポートNo	15700	
削除 更新		

#### 6.6.1. 新規登録

上図の画面から、【登録画面へ】を選択します。

再接続タイマー(秒)	3	3~60秒まで
【更新画面へ】		
HOSTID		半角入力20桁以内
IPアドレス	210.226.158.243	XXX.XXX.XXX.XXX形式
ポートNo	15700	
登録		

既に登録されているデータをコピーして新規登録する場合は、一旦検索し、登録画面を選択すると、内容がコピーされます。

以下の内容を設定します。

- ・ 再接続タイマー・・・接続できない場合に再接続するタイミングを設定。
- ・ HOSTID・・・HOSTID を指定します。  
     ホストからの通知ファイルの HOSTID と同じものを指定。
- ・ IP アドレス・・・ホストの IP アドレスを設定します。
- ・ ポート・・・ポート を指定します。

最後に登録ボタンを押します。

### 6.6.2. 更新、削除

更新、削除する場合は、HOSTID を選択し検索ボタンを押します。

該当するデータが表示されたら、編集し更新ボタンもしくは削除ボタンを押します。

再接続タイマー(秒)	3	3～60秒まで
【登録画面へ】		
HOSTID	HOST1	検索
選択後、検索ボタンを押します		
IPアドレス	210.226.158.243	XXX.XXX.XXX.XXX形式
ポートNo	15700	

削除    更新

### 6.7. FTP 情報

HTML 更新サービスで作成された HTML ファイルをどのサーバに UPLOAD するかの設定を行います。

再接続タイマー	3	3～60秒まで
再接続回数	3	1～10まで
FTPポートNo	21	
【登録画面へ】		
FTPID	SEND1	検索
選択後、検索ボタンを押します		
FTPホスト名	ftp.systemdaio.com	
FTPディレクトリ名	/home/azian/public_html	
FTPユーザ名	azian	
FTPパスワード名	*****	

削除    更新

#### 6.7.1. 新規登録

上図の画面から、【登録画面へ】を選択します。

再接続タイマー	3	3～60秒まで
再接続回数	3	1～10まで
FTPポートNo	21	
【更新画面へ】		
FTPID		半角入力20桁以内
FTPホスト名	ftp.systemdaio.com	
FTPディレクトリ名	/home/azian/public_html	
FTPユーザ名	azian	
FTPパスワード名	*****	

登録

既に登録されているデータをコピーして新規登録する場合は、一旦検索し、登録画面を選択すると、内容がコピーされます。

以下の内容を設定します。

- ・ 再接続タイマー・・・接続できない場合に再接続するタイミングを設定。
- ・ 再接続回数・・・接続できない場合のリトライする回数を設定。
- ・ FTPポート・・・FTPポートを設定。通常は21を指定してください。
- ・ FTPID・・・FTPIDを設定。
- ・ FTPホスト名・・・FTPサーバの名前を設定。
- ・ FTPディレクトリ名・・・書込みディレクトリ名を設定。
- ・ FTPユーザ名・・・ユーザ名を設定
- ・ FTPパスワード・・・ユーザパスワードを設定

最後に登録ボタンを押します。

### 6.7.2. 更新、削除

更新、削除する場合は、FTPIDを選択し検索ボタンを押します。

該当するデータが表示されたら、編集し更新ボタンもしくは削除ボタンを押します。

再接続タイマー	3	3～60秒まで
再接続回数	3	1～10まで
FTPポートNo	21	
【登録画面へ】		
FTPID	SEND1	検索
選択後、検索ボタンを押します		
FTPホスト名	ftp.systemdaio.com	
FTPディレクトリ名	/home/azian/public_html	
FTPユーザ名	azian	
FTPパスワード名	*****	

削除 更新

## 6.8. HTML 情報

HTML 更新サービスで作成する HTML ファイルの詳細情報を設定します。

		【登録画面へ】
HTMLID	HTML2 検索	選択後、検索ボタンを押します
HTMLヘッダーファイル	C:\VAZ\UP\HTML\Header2.htm	フルパス入力
HTML基本情報ファイル	C:\VAZ\UP\HTML\HtmE.dat	フルパス入力
HTMLフッターファイル	C:\VAZ\UP\HTML\End2.htm	フルパス入力
HTML出力ファイル	index1.html	ファイル名のみ
TABLE横枠数	4	数値入力
データ%表示フラグ	1	0表示しない 1表示する
表示順序	0	0昇順 1降順
FTPID	SEND1	

[ 削除 ] [ 更新 ]

### 6.8.1. 新規登録

		【登録画面へ】
HTMLID		半角入力20桁以内
HTMLヘッダーファイル	C:\VAZ\UP\HTML\Header2.htm	フルパス入力
HTML基本情報ファイル	C:\VAZ\UP\HTML\HtmE.dat	フルパス入力
HTMLフッターファイル	C:\VAZ\UP\HTML\End2.htm	フルパス入力
HTML出力ファイル	index1.html	ファイル名のみ
TABLE横枠数	4	数値入力
データ%表示フラグ	1	0表示しない 1表示する
表示順序	0	0昇順 1降順
FTPID	SEND1	

[ 登録 ]

上図の画面から、【登録画面へ】を選択します。

既に登録されているデータをコピーして新規登録する場合は、一旦検索し、登録画面を選択すると、内容がコピーされます。

以下の内容を設定します。

- HTMLID・・・HTMLID を設定します。  
ここで設定した ID は JOBID 情報設定時の HTMLID となります。
- HTML ヘッダーファイル・・・HTML ファイルを作成する際のヘッダー情報を格納してあるファイルを指定します。
- HTML 基本情報ファイル・・・HTML ファイルを作成する際のデータ情報を格納してあるファイルを指定します。
- HTML フッターファイル・・・HTML ファイルを作成する際のフッター情報を格納してあるファイルを指定します。
- HTML 出力ファイル・・・HTML ファイルのファイル名を指定します。
- TABLE 横枠数・・・HTML ファイル内の TABLE 枠がいくつあるか指定します。  
ここを正しく指定しないと、正常に表示されない場合があります。

- ・ データ 表示フラグ・・・HTML ファイル内にデータ を表示するかの指定をします。
  - ・ 表示順序・・・実行時間をKEYに昇順、降順表示を行います。
  - ・ FTPID・・・FTP で送信する際のFTPID を指定します。
- 最後に登録ボタンを押します

### 6.8.2. 更新、削除

更新、削除する場合は、HTMLID を選択し検索ボタンを押します。

該当するデータが表示されたら、編集し更新ボタンもしくは削除ボタンを押します。

HTMLID		HTML2	検索	選択後、検索ボタンを押します
HTMLヘッダーファイル	C:\VAZJUN\HTML\Header2.htm			フルパス入力
HTML基本情報ファイル	C:\VAZJUN\HTML\Htm2.dat			フルパス入力
HTMLフッターファイル	C:\VAZJUN\HTML\End2.htm			フルパス入力
HTML出力ファイル	index1.html			ファイル名のみ
TABLE 換符値	4			数値入力
データ%表示フラグ	1			0:表示しない 1:表示する
表示順序	0			0:昇順 1:降順
FTPID	SEND1			

### 6.9. LOG 情報

イベントログ等の設定を行います。

ログ書き込み設定	0	0:エラー時、正常終了時に記述 1:エラー時のみ記述
サービス監視	1	0:サービスの動作監視 1:何もしない

- ・ ログ書き込み設定・・・イベントログへの書き出し条件を設定します。
  - 0：エラー時、正常終了時の記述する場合。
  - 1：エラー時のみの記述する場合。(通常はこちらを指定して下さい)
- ・ サービス監視・・・以下のサービスが停止している場合にイベントログへ書き出し条件を設定します。
  - 処理要求サービス(AZREQSRV)
  - 処理実行サービス(AZRUNSRV)
  - 処理結果振分サービス(AZRETSRV)
  - HTML 更新サービス(AZHTMSRV)
  - 0：停止している場合に記述します。
  - 1：何もしない場合。

## 7. 実行ログ

実行されたアプリケーションのログは、以下の場所に構築されます。

ただし、FILEID の設定で、開始ログと終了ログが設定されている場合に限りです。

<http://ホスト名/aziunlog/xxxxxx.html>

xxxxxx.html は、HTML 設定での html 名になります。

No.	JOBID	処理名	実行時間	ユーザ名	処理結果	ステータス
1	TESTJOB1	テスト処理1	2000/02/03_02:09:14	aziun	処理終了	100
2	TESTJOB1	テスト処理1	2000/02/03_02:08:56	aziun	要求受付	----
3	TESTJOB3	テスト処理3	2000/02/03_01:41:17	aziun	処理終了	0
4	TESTJOB3	テスト処理3	2000/02/03_01:41:08	aziun	要求受付	----
5	TESTJOB1	テスト処理1	2000/01/25_00:06:50	aziun	処理終了	100
6	TESTJOB1	テスト処理1	2000/01/25_00:06:31	aziun	要求受付	----
7	TESTJOB2	テスト処理2	2000/01/24_01:39:39	aziun	処理終了	0
8	TESTJOB2	テスト処理2	2000/01/24_01:39:30	aziun	要求受付	----

表示できるログ内容については、設定例などを参考にして、設定してください。

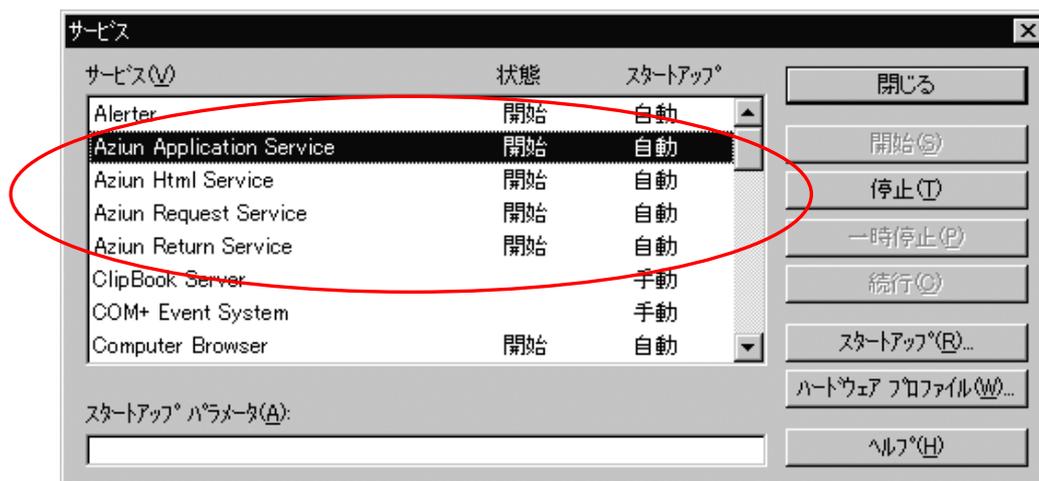
## 8. サービスの設定

### 8.1. サービスの登録

サービスを登録する場合は、本アプリケーションをインストールしたフォルダー内の `install.bat` を実行してください。

実行後、サービスが追加され実行されます。

コントロールパネルのサービスにて確認してください。



### 8.2. サービスの削除

サービスを削除する場合は、本アプリケーションをインストールしたフォルダー内の `delete.bat` を実行してください。

実行すると、上記のコントロールパネルのサービスから削除されます。

### 8.3. サービスの停止、開始

サービスの開始は何も設定しなければ、自動的に開始されます。

サーバを起動した際に自動的に開始されるようになります。

サービスの停止、開始はコントロールパネルのサービスを使って操作してください。

## 9. 設定例

### 9.1. アプリケーションの起動例

ACOS から以下の FILEID を受け取ったら、アプリケーションを起動して終了ステータスをログに書き出します。

なお、この時点で、WACTH 情報と CLASS 情報は設定されているものとして進めます。

FILEID=TEST06 ACOS から通知ファイルで指定されてくるファイル ID となります。

起動結果のログは以下のような HTML 形式で吐き出すものとします。

Azionサービス処理ログ一覧						
No	JOBID	処理名	実行時間	ユーザ名	処理結果	ステータス
1	TESTJOB6	起動テスト1	2000/01/23_22:37:09	aziun	要求受付	----
2	TESTJOB6	起動テスト1	2000/01/23_22:37:16	aziun	処理終了	100

#### 9.1.1. FTP 情報の設定

上図のログ出力 HTML を書き出す場所を以下のように設定します。

再接続タイマー	3	3~60秒まで
再接続回数	3	1~10まで
FTPポートNo	21	
<a href="#">【更新画面へ】</a>		
FTPID	SEND2	半角入力20桁以内
FTPホスト名	daioserver	
FTPディレクトリ名	/aziunlog	
FTPユーザ名	aziun	
FTPパスワード名	*****	

登録

ここでは、FTPID を SEND 2 として登録しておきます。

FTP ホスト名は、本アプリケーションが動作しているマシン、もしくは別のマシンでも問題ありません、ただし、FTP、WEBサーバが設定されていることが前提になります。

FTPディレクトリ名、ユーザ名、パスワードは事前に調べておいてください。

### 9.1.1.2. HTML 情報の設定

ログ出力するファイル情報などを設定します。

ここでは、HTMLID を HTML1 としておきます。

【戻る前の画面へ】		
HTMLID	HTML1	半角入力20桁以内
HTMLヘッダーファイル	C:\NAZELPN\HTMLVHeader1.htm	フルパス入力
HTML基本情報ファイル	C:\NAZELPN\HTMLVHtml1.dat	フルパス入力
HTMLフッターファイル	C:\NAZELPN\HTMLVEnd1.htm	フルパス入力
HTML出力ファイル	index.html	ファイル名のみ
TABLE換符数	6	数値入力
データ表示フォーマット	1	
FTPID	SENIC	

登録

指定したパスにファイルがあることを確認してください。

HTML 基本情報ファイルはデータファイルなので、無くても生成されます。

FTPID は、前ページで登録した ID にします。

ログ HTML に要求受付を書き出す JOB を指定します。

【戻る前の画面へ】		
JOBID	LOGSTART	半角入力20桁以内
起動アプリケーション		フルパス入力
起動HTMLID	HTML1	HTML情報で定義されているID
引数	-SMD=0 -T1=XJOBIDX -T2=XJOBAMX -T3=XYYYYX/MX/XDOX_XHX:XXFX:XXSX -T4=XUSERX -T5=要求受付	引数は空白
起動クラス	Y	クラスで指定されているクラスID
処理名称	処理起動	日本語で60文字まで
正常終了時のリターンコード	0 ~ 9	正常終了時のリターンコード範囲
サービス終了時のアプリケーションの状態	0	0-そのまま 1-強制終了

※起動するアプリケーション/起動するHTMLIDのどちらかを入力します。両方は選択できません。

登録

JOBID の指定をします。

ここでは、JOBID を LOGSTART とします。なお、HTMLID は先ほど登録した HTMLID にします。

引数は以下ようになります。

-SMD=A....同じ JOBID のログが既にあっても上書きで登録しています。

O....同じ JOBID が存在する場合は、上書き登録とします。

日数....同じ JOBID が存在する場合は、指定された日数が経過した段階で消去します。

-Tx=表示する内容。 X は項目番号となります。

例えば以下の場合だと、-T1=JOBID,-T2=処理名,-T3=実行時間,-T4=J-ガ名・・となります。

Aziumサービス処理ログ一覧						
No	JOBID	処理名	実行時間	ユーザ名	処理結果	ステータス
1	TESTJOB06	起動テスト1	2000/01/23_22:37:09	aziun	要求受付	----
2	TESTJOB06	起動テスト1	2000/01/23_22:37:16	aziun	処理終了	100

ここでは、ACOS からの通知ファイルの中身などをパラメータとして取得することが可能です。

上図の場合だと、

T1=%JOBID% ....起動した JOBID

T2=%JOBNM% .....起動した JOB 名称

T3=%YYYY%/%MM%/%DD%\_%HH%:%FF%:%SS% ....現在の時刻(実行時刻)

必ずパラメータ前後は%記号を指定してください。

詳しいパラメータについては、本マニュアルの仮パラメータを参照してください。

ログ HTML に処理終了を書き出す JOB を指定します。

JOBID の指定をします。

JOBID	LOGEND	半角入力20桁以内
起動アプリケーション		フルパス入力
起動HTMLID	HTML1	HTML 種類で定義されているID
引数	-SMD=1 -T1=%JOBID% -T2=%JOBNM% -T3=%YYYY%/%MM%/%DD%_%HH%:%FF%:%SS% -T4=%USER% -T5=処理終了 -T6=%JOBSTS%	引数は空白
起動クラス	Y	クラスで指定されているクラスID
処理名称	処理終了	日本語で64文字まで
正常終了時のリターンコード	0 ~ 0	正常終了時のリターンコード範囲
サービス終了時のアプリケーションの状態	0	0-そのまま 1-強制終了

※起動するアプリケーション/起動するHTMLIDのどちらかを入力します。両方は選択できません。

登録

ここでは、JOBID を LOGEND としておきます。

要求受付とは違い、-T5 で処理終了、-T6 で%JOBSTS%を定義しております。

これで、ログ出力の HTML に関する設定は終わりです。

出力する際の情報（項目）が起動するアプリケーションで共通であれば、この1組だけ定義してあれば、使いまわすことは可能です。

起動するアプリケーションごとに、表示するログ内容も変わる場合はそれぞれの組み合わせ分の定義をしてください。

### 9.1.3. JOBID 情報の設定

起動するアプリケーションの設定を行います。

JOBID	TESTJOB6	半角入力20桁以内
起動アプリケーション	C:\Aziun\Acceptor\RunAze.exe	パス入力
起動HTMLID		HTML情報で定義されているID
引数	10 100	引数は空白
起動クラス	A	クラスで指定されているクラスID
処理名	起動テスト1	日本語で60文字まで
正常終了時のリターンコード	0 ~ 0	正常終了時のリターンコード範囲
サービス終了時のアプリケーションの試数	1	そのまま 1=強制終了

\*起動するアプリケーション起動するHTMLIDのどちらかを入力します。両方は選択できません。

登録

ここでは、JOBID を TESTJOB6 としておきます。

起動するアプリケーションのパスは間違えないように入力してください。

ここでは、C:\Aziun\Acceptor\RunAze.Exe を起動するようにします。

引数には、10 100 を指定します。

### 9.1.4. FILEID 情報の設定

ACOS からの受け取った通知ファイルの FILEID から何を起動するかの指定をします。

FILEID	TEST06	半角入力20桁以内
起動するJOBID	TESTJOB6	登録済みのJOBID
正常終了時に起動するJOBID		登録済みのJOBID
異常終了時に起動するJOBID		登録済みのJOBID
開始ログ用JOBID	LOGSTART	登録済みのJOBID
終了ログ用JOBID	LOGEND	登録済みのJOBID

登録

ここでは、ACOS から受け取る FILEID を TEST06 し、起動するアプリケーションの JOBID を先ほど登録した TESTJOB6 ます。

開始ログ、終了ログは先ほど登録した LOGSTART、LOGEND とします。

これで設定は完了です。

ACOS から通知ファイルを受信する前に、起動要求受付サービス、処理結果振分サービスの定義がされているかどうか確認してください。

ACOS からは、以下の画面で指定しているディレクトリへ FTP でファイルアップを行います。

起動要求受付サービス		
監視するディレクトリ	<input type="text" value="/home/aziun/run"/>	空白を含むディレクトリ名は禁止
監視する間隔(秒)	<input type="text" value="5"/>	3~60秒以内
処理結果振分サービス		
監視するディレクトリ	<input type="text" value="/home/aziun/ret"/>	空白を含むディレクトリ名は禁止
監視する間隔(秒)	<input type="text" value="5"/>	3~60秒以内

更新

データファイルは別のディレクトリへ FTP してください。

Aziunサービス処理ログ一覧						
No	JOBID	処理名	実行時間	ユーザ名	処理結果	ステータス
1	TESTJOB6	起動テスト1	2000/01/23_22:37:09	aziun	要求受付	----
2	TESTJOB6	起動テスト1	2000/01/23_22:37:16	aziun	処理終了	100

これで、正しく設定がされていれば、ログが表示されます。

## 9.2. データファイルの配布例

ACOS から通知ファイルを受け取ったら、ACOS から受信したデータなどを以下のように配信することが可能です。

Aziunサービス ダウンロード一覧				
No	JOBID	処理名	実行時間	ユーザ名
1	FTPDOWN	AZIUN資料一式	2000/01/23_23:40:52	aziun

クリックすれば、以下のように表示することも可能です。

ダウンロードさせることも可能です。



FTP 情報の定義については、既に定義されているものとして進めていきます。

### 9.2.1. HTML 情報の設定

配布用の HTML ファイル情報を設定します。

HTMLID	HTML2	半角入力20桁以内
HTMLヘッダーファイル	C:\VAZJUN\HTMLVHeader2.htm	フルパス入力
HTML基本情報ファイル	C:\VAZJUN\HTMLVHtm2.dat	フルパス入力
HTMLフッターファイル	C:\VAZJUN\HTMLVEx2.htm	フルパス入力
HTML出力ファイル	index1.html	ファイル名のみ
TABLE表数値	4	数値入力
データ%表示フラグ	1	
FTPID	SEND1	

登録

ここでは、HTMLID を HTML2 しておきます。

指定したパスにファイルがあることを確認してください。

HTML 基本情報ファイルはデータファイルなので、無くても生成されます。

FTPID は、登録してある ID にします。

通常のログ出力と、FTPID が一緒の場合は HTML 出力ファイルが一緒にならないようにしてください。

### 9.2.2. JOBID 情報の設定

ここでは、アプリケーションを起動するのではなく、HTML の内容について設定します。

JOBID	FTPDOWN	半角入力20桁以内
起動アプリケーション		フルパス入力
起動HTMLID	HTML2	HTML情報で定義されているID
引数	-SMD=0 -T1=%JOBID% -A1=http://www1.systems.co.jp/aziun/aziun.pdf -S=0A10SERVER -F=aziun.pdf -U=aziun -P=aziun -T2=%JOBNAME% -T3=%YYYY%/X/MN/%DD%_HH%:FF%:SS% -T4=%USER%	引数は空白
起動クラス	Y	クラスで指定されているクラスID
処理名称	AZJUN資料一式	日本語で60文字まで
正常終了時のリターンコード	0 ~ 0	正常終了時のリターンコード範囲
サービス終了時のアプリケーションの状態	1	0-そのまま 1-強制終了

\*起動するアプリケーション/起動するHTMLIDのどちらかを入力します。両方は選択できません。

登録

ここでは、JOBID を FTPDOWN としておきます。

引数は以下の内容になります。

-SMD=A....同じ JOBID のログが既にあっても上書きで登録しています。

O....同じ JOBID が存在する場合は、上書き登録とします。

日数....同じ JOBID が存在する場合は、指定された日数が経過した段階で消去します。

-Tx=表示する内容。 X は項目番号となります。

例えば以下の場合だと、-T1=JOBID,-T2=ファイル内容,-T3=実行時間,-T4=ユーザ名・・・となります。

ここでは、ACOS からの通知ファイルの中身などをパラメータとして取得することが可能です。

Aziumサービスダウンロード一覧				
No	JOBID	処理名	実行時間	ユーザ名
1	ETPDOWN	AZIUN資料一式	2000/01/23_23:40:52	azium

上図の場合だと、

T1=%JOBID% ....起動した JOBID

T2=%JOBNM% .....起動した JOB 名称

T3=%YYYY%/%MM%/%DD%\_%HH%:%FF%:%SS% ....現在の時刻(実行時刻)

必ずパラメータ前後は%記号を指定してください。

詳しいパラメータについては、本マニュアルの仮パラメータを参照してください。

-Ax=アンカー情報。 ここでは、実際にファイルの場所となります。

X は項目番号となり、-A1=ftp://www1.systemdaio.com/aziun/aziun.pdf

であれば、JOBID の位置に ftp://~ のリンク情報を貼り付けます。

また、配布の場合には、-SMD=0,もしくは数値を指定して、削除の該当になる場合は  
実データの削除も行います。その際に以下の指定が必要です。

指定がどれか抜けていたり、無い場合は無視されます。

-S=サーバ名

-F=ファイル名

-U=ユーザ名

-P=パスワード

実際にファイルを削除できるユーザ名にしてください。

### 9.2.3. FILEID の指定

ACOS からの受け取った通知ファイルの FILEID を指定します。

FILEID	TEST05	半角入力20桁以内
起動するJOBID	FTPDOWN	登録済みのJOBID
正常終了時に起動するJOBID		登録済みのJOBID
異常終了時に起動するJOBID		登録済みのJOBID
開始ログ用JOBID		登録済みのJOBID
終了ログ用JOBID		登録済みのJOBID

登録

ここでは、仮に TEST05 としておきます。

起動する JOBID は先ほど登録した FTPDOWN に設定します。

これで設定は完了です。

ACOS から通知ファイル及び、データファイルを受け取ると以下ようになります。

Aziumサービス ダウンロード一覧				
No	JOBID	処理名	実行時間	ユーザ名
1	FTPDOWN	AZIUM資料一式	2000/01/23_23:51:25	azium

## 10. 仮パラメータ

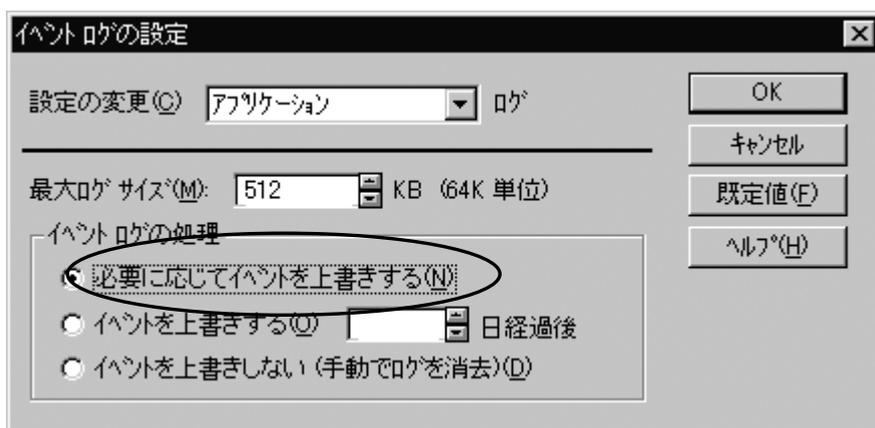
JOBID 情報などで指定できるパラメータは以下のようになります。

	パラメータ	内容
1	%ENV%	環境種別
2	%RCKB%	レコード区分
3	%DTTM%	採取日時
4	%COND%	処理区分
5	%REQKB%	要求元区分
6	%FTZKB%	転送属性
7	%WXKB%	WXKB
8	%FLID%	ファイル ID
9	%AKSCD%	宛先加入者
10	%HKSCD%	発生源加入者
11	%FMCD%	ファイル明細 CD
12	%FMNM%	ファイル名称
13	%CNT%	件数
14	%BYTE%	バイト数
15	%ELPS%	経過時間(秒数)
16	%STATUS%	ステータス
17	%UPKB%	出力モード
18	%BASE%	予備
19	%TRMID%	端末 ID
20	%DV%	端末デバイス
21	%DSNM%	端末ファイル名
22	%TRM1_UPKB%	
23	%TRM1_FIL%	
24	%MCKB%	
25	%DLENG%	
26	%MCBYTE%	
27	%OPT%	
28	%ACCID%	
29	%FTMODE%	
30	%DTYPE%	
31	%TRM2_FIL%	
32	%EXE%	起動 AP 名
33	%CMD%	起動引数
34	%JOBID%	JOBID
35	%JOBYMD%	起動時刻
36	%JOBNM%	JOB 名称
37	%JOBSTS%	起動ステータス
38	%USER%	ユーザ名
39	%YYYY%	現在の日付 西暦 4 桁
40	%YY%	現在の日付 西暦 2 桁
41	%MM%	現在の日付 月
42	%DD%	現在の日付 日
43	%HH%	現在の時刻 時
44	%FF%	現在の時刻 分
45	%SS%	現在の時刻 秒

## 11. イベントログ

AziunAcceptorService で異常などが発生した場合には、イベントログへ書き出しを行います。アプリケーションログとして出力されます。

まず、イベントログのアプリケーションログを開いて、ログの設定を選択してください。以下の画面が表示されます。

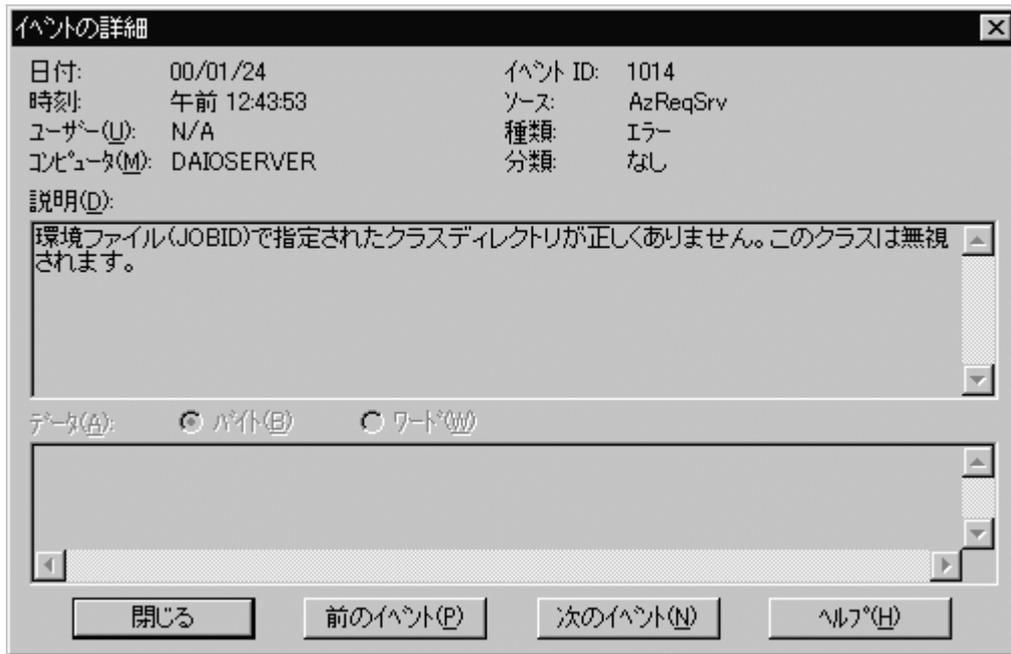


イベントログの処理を上図のように、必要に応じてイベントを上書きするに変更してください。

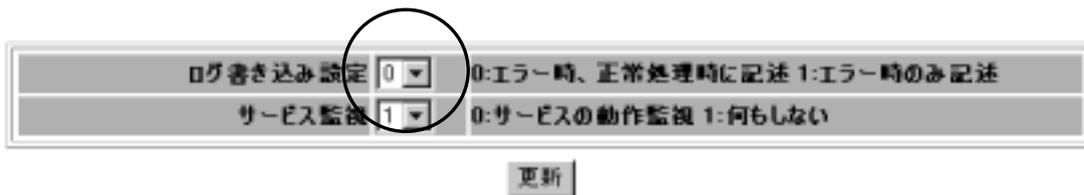
何かしらのエラーが発生した場合は、以下のようなアイコンでエラーイベントが表示されます。STOP アイコン。



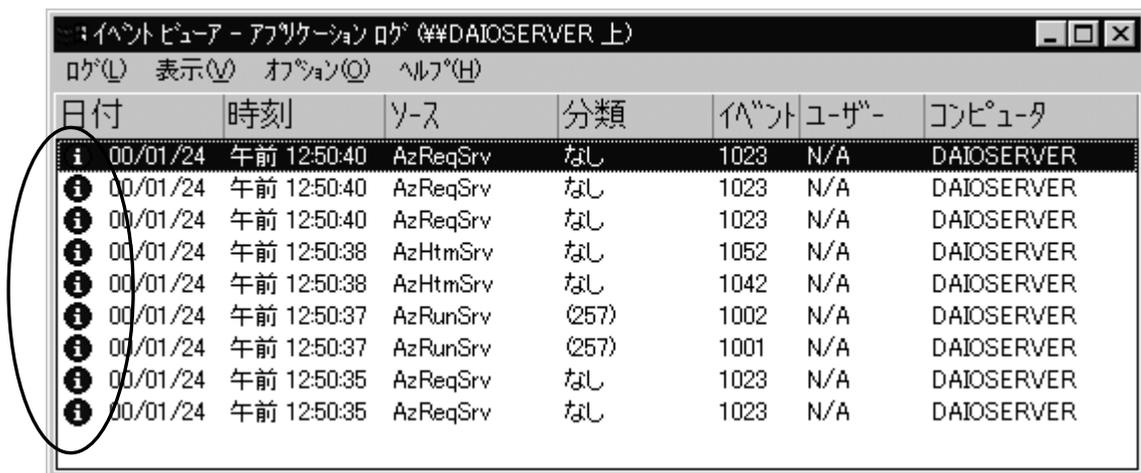
詳細を確認する場合は、各ログ上でダブルクリックをしてください。以下のような画面が表示されます。



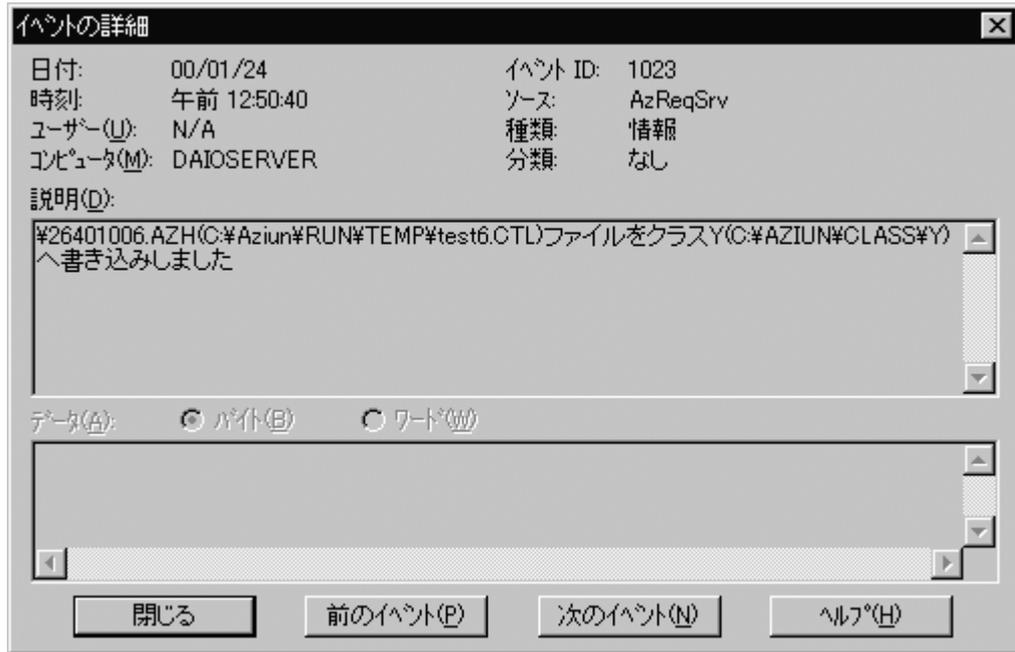
上図のようなメッセージが表示されますので、確認してください。



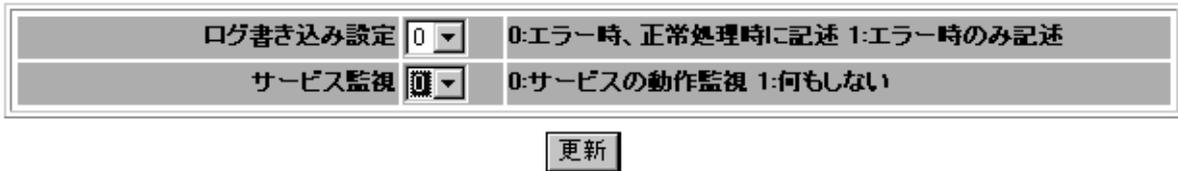
なお、環境設定で、ログ書き込み設定が0になっている場合は正常時にもイベントログ出力をします。



インフォメーションアイコンは正常時のメッセージとなります。  
ダブルクリックすると以下のようなメッセージ内容になっております。



また、環境設定でサービス監視がサービスの動作監視が指定されている場合（下図参照）、Aziun サービスが停止されているとエラーが表示されます。



以下のようなメッセージが表示されます。

